

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年6月25日

【事業年度】 第174期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 北海道瓦斯株式会社

【英訳名】 HOKKAIDO GAS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大槻 博

【本店の所在の場所】 札幌市東区北7条東2丁目1番1号

【電話番号】 札幌 011-792-8312(直通)

【事務連絡者氏名】 経理部長 西村 俊哉

【最寄りの連絡場所】 札幌市東区北7条東2丁目1番1号

【電話番号】 札幌 011-792-8312(直通)

【事務連絡者氏名】 経理部長 西村 俊哉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人札幌証券取引所  
(札幌市中央区南1条西5丁目14番地の1)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第170期	第171期	第172期	第173期	第174期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	93,131,570	87,040,839	103,580,881	121,174,440	126,375,477
経常利益 (千円)	1,785,751	1,824,136	2,911,860	4,222,837	5,194,716
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	1,151,265	1,297,355	1,923,329	3,503,619	3,954,582
包括利益 (千円)	1,132,114	1,473,303	1,825,433	3,010,581	4,330,545
純資産額 (千円)	40,625,861	42,048,528	44,644,148	46,910,282	50,411,863
総資産額 (千円)	130,357,392	136,058,047	147,199,048	149,566,858	150,345,184
1株当たり純資産額 (円)	485.06	488.12	2,426.77	2,552.52	2,747.48
1株当たり当期純利益 金額 (円)	14.77	16.19	110.56	198.95	224.58
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	13.07	14.71	110.40	198.59	224.07
自己資本比率 (%)	29.7	29.5	29.0	30.1	32.2
自己資本利益率 (%)	3.0	3.3	4.6	8.0	8.5
株価収益率 (倍)	18.9	17.0	2.7	7.2	6.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	14,333,704	11,415,507	16,729,994	12,362,618	15,405,803
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	12,134,436	14,867,507	17,819,121	15,840,133	15,213,721
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	620,733	555,243	3,313,954	1,884,023	353,048
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	3,963,413	1,066,656	3,291,483	1,697,992	1,537,027
従業員数 (外、臨時従業員数) (名)	1,221 (591)	1,282 (586)	1,343 (594)	1,382 (617)	1,399 (610)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 従業員数は、就業人員数を記載しております。  
3 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。第172期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。  
4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第173期の期首から適用しており、第172期に係る主要な経営指標については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第170期	第171期	第172期	第173期	第174期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	78,370,399	71,895,744	87,872,728	104,696,571	108,535,333
経常利益 (千円)	1,111,251	1,246,789	1,897,824	2,891,526	3,283,574
当期純利益 (千円)	771,512	1,084,570	1,212,839	2,980,705	2,444,431
資本金 (千円)	6,424,830	6,731,330	7,515,830	7,515,830	7,515,830
発行済株式総数 (千株)	80,363	82,703	88,691	17,737	17,737
純資産額 (千円)	32,438,795	33,666,499	35,607,885	37,501,319	39,392,625
総資産額 (千円)	116,345,616	121,140,215	130,156,616	133,463,053	134,797,547
1株当たり純資産額 (円)	406.57	409.93	2,020.64	2,127.99	2,235.00
1株当たり配当額 (円)	8.00	8.00	8.00	27.00	50.00
(1株当たり 中間配当額) (円)	(4.00)	(4.00)	(4.00)	(4.50)	(25.00)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	9.90	13.54	69.72	169.26	138.82
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	8.77	12.30	69.62	168.95	138.50
自己資本比率 (%)	27.9	27.8	27.3	28.1	29.2
自己資本利益率 (%)	2.4	3.3	3.5	8.2	6.4
株価収益率 (倍)	28.2	20.3	21.4	8.5	11.1
配当性向 (%)	80.8	59.1	57.4	26.6	36.0
従業員数 (名)	622	676	716	746	769
(外、臨時従業員数)	(256)	(252)	(251)	(237)	(206)
株主総利回り (%)	101.1	102.5	113.7	113.0	123.9
(比較指標: TOPIX(配 当込み)) (%)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	294	284	309	1,574 (320)	1,698
最低株価 (円)	270	265	269	1,400 (295)	1,336

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員数を記載しております。

3 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2018年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。なお、2019年3月期の1株当たり配当額27.00円は中間配当額4.50円と期末配当額22.50円の合計であります。株式併合後の基準で換算した2019年3月期の1株当たり配当額は、45.00円となります。

4 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 第173期の株価については株式併合後の最高株価及び最低株価を記載しており、( )内に株式併合前の最高株価及び最低株価を記載しております。

2 【沿革】

年月	沿革
1911年7月	資本金300万円をもって北海道瓦斯株式会社を設立(12日)
1912年9月	札幌、小樽、函館各市内においてガス供給を開始。お客さま数3,600件
1949年5月	東京証券取引所に株式上場
1950年3月	札幌証券取引所に株式上場
1961年11月	石炭から石油系原料へのガス源転換を開始
1963年9月	本社を東京都から札幌市に移転
1965年9月	石油系原料へのガス源転換を完了
1967年12月	札幌市に北ガス燃料株式会社(現商号北ガスジェネックス株式会社)を設立(現・連結子会社)
1969年9月	都市ガスのお客さま数10万件を突破
1972年7月	札幌市に北ガス建設株式会社(現商号北ガスジーブレックス株式会社)を設立(現・連結子会社)
1974年4月	札幌市に北ガスサービス株式会社を設立(現・連結子会社)
1974年10月	札幌地区の供給熱量を変更
1976年3月	函館営業所を新函館都市ガス株式会社に分離譲渡
1986年4月	新函館都市ガス株式会社を吸収合併
1993年3月	都市ガスのお客さま数50万件を突破
1996年4月	天然ガスの導入を開始
1996年5月	札幌地区の天然ガス転換を開始
1997年6月	千歳市のガス事業を譲受
2002年3月	千歳地区の天然ガス転換を開始、同年5月に同地区の転換を完了
2005年6月	札幌地区の天然ガス転換を完了
	小樽地区の天然ガス転換を開始、同年12月に同地区の転換を完了
2005年9月	札幌市に株式会社エナジーソリューションを設立(現・連結子会社)
2006年2月	函館みなと工場が営業運転を開始
	函館地区の天然ガス転換を開始、同年12月に同地区の転換を完了
2006年4月	北見市のガス事業を譲受
2009年3月	北見LNGサテライト基地が営業運転を開始
	北見地区の天然ガス転換を開始、同年8月に同地区の転換を完了
2009年4月	株式会社北海道熱供給公社の株式を追加取得(現・連結子会社)
2010年1月	地域総合チャネル新ブランド「北ガスフレアスト」営業開始
2011年6月	札幌市に北海道LNG株式会社を設立(現・連結子会社)
2011年7月	会社創立100周年
2012年11月	石狩LNG基地運転開始
2013年9月	供給ガスの標準熱量を変更(46.04655MJ/m <sup>3</sup> →45MJ/m <sup>3</sup> )
2015年4月	当社及びグループ会社の一部施設へ電力供給を開始
2016年4月	電力小売事業開始
2017年10月	札幌地区の北ガスフレアストのうち連結子会社3社を統合し、「北ガスフレアスト株式会社」(現・連結子会社)を設立
2018年3月	電気の契約件数10万件を突破
2018年10月	北ガス石狩発電所の営業運転開始
2019年4月	札幌市北4東6周辺地区への熱電供給を行う「46エネルギーセンター」稼働開始
2019年6月	北ガスグループ本社ビル完成に伴い、本社を札幌市中央区から東区に移転
2019年7月	「北ガス札幌発電所」営業運転開始
2019年11月	太陽光発電(卒FIT)余剰電力買取サービス開始

### 3 【事業の内容】

当社グループ(当社、子会社8社、関連会社9社、計18社)が営んでいる主な事業内容と各関係会社の当該事業に係る位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

#### 「ガス」

当社は、札幌市、小樽市、函館市、千歳市、北見市を主な供給区域としてガスの製造・供給及び販売を行っております。

なお、当社は、LNG出荷・輸送業務を北海道LNG(株)(連結子会社)に、ガスの販売に関する検針等の業務を北ガスサービス(株)(連結子会社)に、ガス供給に関する保安・点検業務等を北ガスフレアスト(株)(連結子会社)、北ガスフレアスト北(株)(持分法適用関連会社)、北ガスフレアスト函館南(株)(持分法適用関連会社)、北ガスフレアスト函館北(株)(持分法適用関連会社)にそれぞれ委託しております。

北海道LNG(株)は、当社からガスの卸供給を受けてガスの販売を行い、所有するLNG関連設備を当社へ賃貸しております。

釧路エルエヌジー(株)(持分法適用関連会社)は、釧路LNGターミナルの基地運営を行っており、当社はLNGを釧路エルエヌジー(株)に預託しております。

石狩LNG棧橋(持分法適用関連会社)は、所有するLNG受入設備を当社へ賃貸しております。

室蘭ガス(株)(持分法適用関連会社)は、室蘭市を主な供給区域としてガスの供給及び販売を行っております。

#### 「電力」

当社は、北海道内を販売区域として電力の販売を行っております。

北ガスジェネックス(株)(連結子会社)は、太陽光発電事業を行っております。

また、苫小牧バイオマス発電(株)(持分法適用関連会社)は、木質バイオマス発電事業を行い、当社へ電力を販売しております。

#### 「エネルギー関連」

当社及び北ガスジェネックス(株)は、札幌市・函館市周辺の新興団地を中心に簡易ガス事業及びLPGの販売を行っております。

また、北ガスジェネックス(株)は、LPGボンベの配送を(株)エネルギーサプライ(持分法適用関連会社)に委託しております。

なお、「ガス」同様、当社は、簡易ガス事業及びLPG販売に関する検針等の業務を北ガスサービス(株)に委託しており、北ガスジェネックス(株)は、簡易ガス事業及びLPG販売に関する保安・点検業務等を、北ガスフレアスト(株)、北ガスフレアスト北(株)にそれぞれ委託しております。

当社、北ガスジェネックス(株)及び室蘭ガス(株)は、ガス引用に関する工事を行っております。

北ガスジーブックス(株)(連結子会社)は、当社及び北ガスジェネックス(株)が発注するガスの配管に関する工事を行っているほか、建築工事、土木工事等を行っております。

また当社及び北ガスジェネックス(株)は、ガス機器の販売及び貸付を行うとともに、北ガスフレアスト(株)、北ガスフレアスト北(株)、北ガスフレアスト函館南(株)、北ガスフレアスト函館北(株)に対しガス機器を卸売しております。

当社は、札幌市における北4東6周辺地区を対象に、冷温熱を供給する事業を行っております。

(株)エナジーソリューション(連結子会社)は、当社からのガス供給により冷温熱及び電力を供給する事業を行っております。

(株)北海道熱供給公社(連結子会社)は、当社からのガス供給により冷温水・蒸気及び電力を供給する事業を行っております。

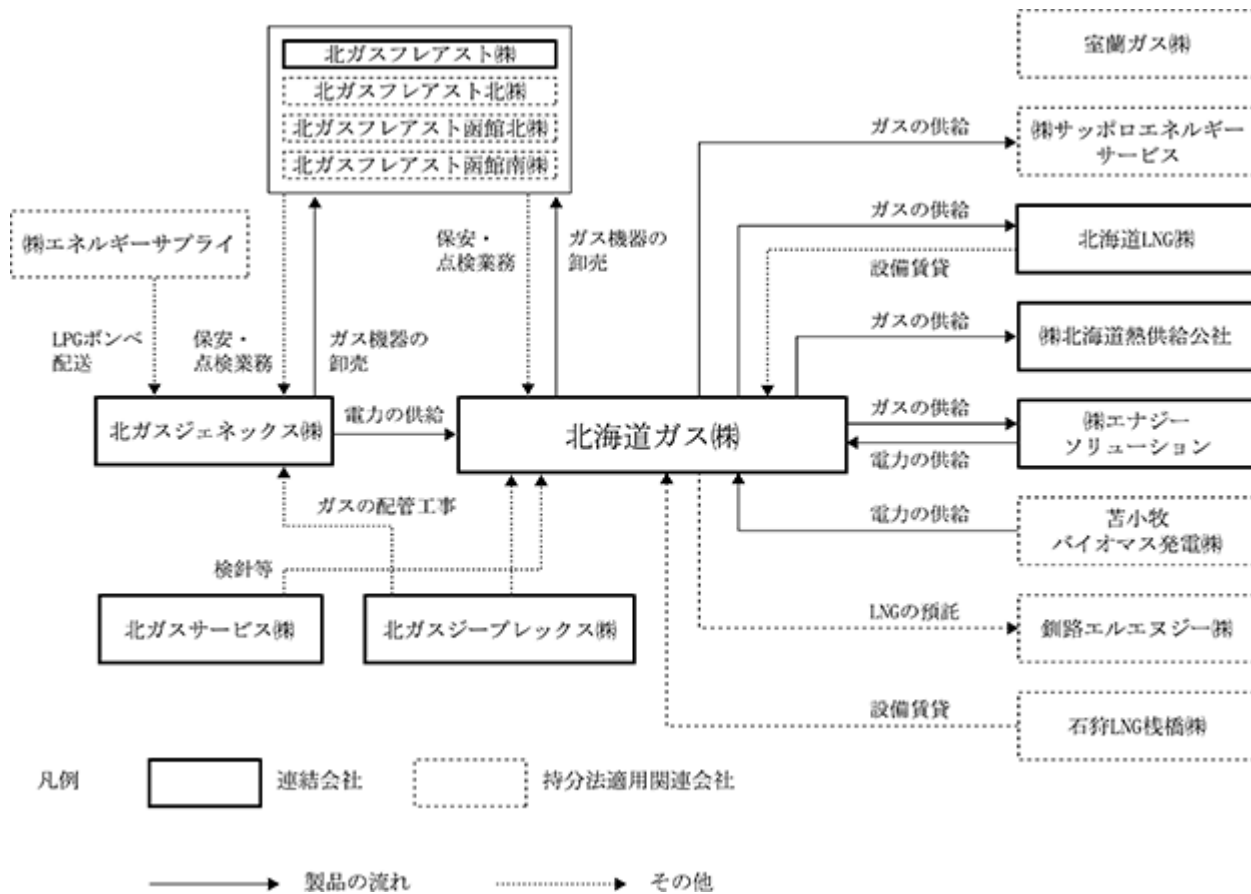
(株)サッポロエネルギーサービス(持分法適用関連会社)は、当社からのガス供給により冷水・蒸気等の熱供給を行っております。

「その他」

北ガスサービス㈱は、当社からの受託業務のほか、ビジネスサポート事業、システム機器の販売等を行っております。

北ガスジーブレックス㈱は、不動産業を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 当社グループには上記事業系統図に記載されているほかに、持分法非適用非連結子会社が1社あります。

## 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有又は 被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 北ガスジェネックス㈱	北海道札幌市 東区	80,000	電力 エネルギー関連 その他	100.0	太陽光発電事業のほか、当社にLPGボンベの販売等を行っております。 役員の兼任等 兼任3名、出向2名
北ガスサービス㈱	北海道札幌市 東区	46,000	ガス その他	100.0	当社からの検針業務の受託及びビジネスサポート事業等を行っております。 役員の兼任等 兼任3名、出向3名
北ガスジブレックス㈱	北海道札幌市 白石区	300,000	エネルギー関連	100.0	当社受注のガス設備工事の施工及びガス供給導管の建設工事を行っております。 資金援助 貸付金 300,000千円 役員の兼任等 兼任1名、出向5名
㈱エナジーソリューション	北海道札幌市 東区	350,000	エネルギー関連	100.0	当社からのガスの供給により冷温熱・電力を供給する事業を行っております。 役員の兼任等 兼任3名、出向2名
㈱北海道熱供給公社 (注)3	北海道札幌市 東区	3,025,250	エネルギー関連	78.51	当社からのガスの供給により冷温水・蒸気及び電力を供給する事業を行っております。 役員の兼任等 兼任4名、出向2名
北海道LNG㈱ (注)3	北海道札幌市 東区	2,000,000	ガス	70.0	当社に設備賃貸を行い、当社からのガスの卸売によりガスの販売を行っております。 資金援助 貸付金 2,880,000千円 役員の兼務等 兼任3名、出向2名
北ガスフレアスト㈱	北海道札幌市 豊平区	23,500	エネルギー関連	100.0	当社からのガス機器の卸売によりガス機器の販売等を行っております。 役員の兼務等 兼任2名、出向4名
(持分法適用関連会社) ㈱エネルギーサプライ	北海道北広島市	80,000	エネルギー関連	40.0 (30.0)	LPGボンベの配送を行っております。 役員の兼任等 兼任1名、出向1名
㈱サッポロエネルギー サービス	北海道札幌市 中央区	200,000	エネルギー関連	30.0	当社からのガスの供給により冷水・蒸気等の熱供給を行っております。 役員の兼任等 出向1名
北ガスフレアスト北㈱	北海道札幌市 東区	37,000	エネルギー関連	34.0	当社からのガス機器の卸売によりガス機器の販売等を行っております。 役員の兼任等 兼任1名、出向1名
北ガスフレアスト函館南㈱	北海道函館市	25,000	エネルギー関連	34.0	当社からのガス機器の卸売によりガス機器の販売等を行っております。 役員の兼任等 出向3名
北ガスフレアスト函館北㈱	北海道函館市	25,000	エネルギー関連	34.0	当社からのガス機器の卸売によりガス機器の販売等を行っております。 役員の兼任等 出向3名
苫小牧バイオマス発電㈱	北海道苫小牧市	499,000	電力	20.0	当社へ電力の販売を行っております。 役員の兼任等 兼任2名
釧路エルエヌジー㈱	北海道釧路市	10,000	ガス	50.0	当社からLNGの預託を受けております。 役員の兼任等 兼務2名、出向1名
石狩LNG棧橋㈱	札幌市東区	240,000	ガス	50.0	当社に設備賃貸を行っております。 資金援助 貸付金 2,446,800千円 役員の兼任等 兼任2名、出向1名
室蘭ガス㈱	北海道室蘭市	132,500	ガス	23.79	ガス供給・販売・ガス設備工事の施工及びガス供給導管の建設工事を行っております。 役員の兼任等 兼任1名、出向1名

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2 「議決権の所有又は被所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。  
3 特定子会社であります。  
4 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。



## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ガス	674 (304)
電力	73 (16)
エネルギー関連	545 (150)
その他	44 (124)
全社(共通)	63 (16)
合計	1,399 (610)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は( )内に外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
769 (206)	40.1	17.3	5,602

セグメントの名称	従業員数(名)
ガス	595 (149)
電力	71 (16)
エネルギー関連	40 (25)
その他	- (-)
全社(共通)	63 (16)
合計	769 (206)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は( )内に外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。なお、管理職の地位にある者を算定対象に含みません。

### (3) 労働組合の状況

- a 名称 北海道ガス労働組合、北ガスジェネックス労働組合、北ガスサービス労働組合、北ガスジープレックス労働組合
- b 上部団体 全国ガス労働組合連合会(北ガスジープレックス労働組合除く)
- c 組合員数 2020年3月末現在 968名
- d 特記すべき事項 労使関係は円満に推移しており特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、当社グループの事業活動にも影響を及ぼしつつありますが、まずは、足元の体制をしっかりと整え、お客さまの安全・安心とエネルギーの安定供給に万全を期してまいります。一方、人口減少や少子高齢化といった社会構造の変化、地球温暖化に伴う気候変動等の事業環境をいかに見極め、計画を立てていくかが大きな課題となっております。

このような中、当社グループが、事業環境の変化に対応しつつ成長していくためには、安定的な収益基盤の構築が不可欠です。ガス供給設備や自社電源等の大型投資により総資産が増加していますが、ガス・電力の需要開発を確実に進めていくことに加え、設備稼働率を向上させることにより収益力を高め、財務体質の強化を図ります。このため、2020年度を最終年度とする「2016中期経営計画」の総仕上げに向けて、各施策を積極的に進めてまいります。また、当社グループ全体の人材基盤の強化に向けて「働き方改革」、「女性活躍推進」、「健康経営」を推進してまいります。

昨年11月には、新たな組織として「次世代プラットフォーム検討プロジェクト」を設置しました。これは、事業に関わるあらゆる情報（ビッグデータ）を繋ぎ、デジタル技術を活用することにより事業の革新を図り、持続的成長を目指すものであります。さらに、今後も起こり得る地震等の自然災害に対し、危機管理の観点から、レジリエンス（強靭性）をより一層強化し、適切かつ柔軟に対応してまいります。

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、先行きが不透明な状況が続いておりますが、今後の推移を注視しながら、これらの課題にしっかりと取り組んでまいります。

#### < ガス事業基盤の強化 >

当社の普及率は50%台前半であり、拡大・成長の余地が大きいことから、引き続き、ガス事業基盤の強化に取り組んでまいります。家庭用分野では、エネルギー効率に優れた省エネ型給湯暖房システム「エコジョーズ」や、省エネ・節電効果の高いガスマイホーム発電「コレモ」、「エネファーム」の普及拡大を図ります。加えて、ガス供給エリア内のガス導管未整備地区において、ガス導管を戦略的に整備・拡充し、家庭用、業務用の燃料転換を推進し、ガス普及率の向上と将来の顧客基盤づくりを進めます。また、業務用分野では、既築物件の燃料転換や、ガスコージェネレーションシステムといった天然ガスの高度利用を推進してまいります。さらに、供給エリアから離れた遠方の地域には、「LNGサテライト供給」の営業活動により、北海道全域に天然ガスの普及拡大を進めてまいります。

このような事業展開を見据え、安定的かつ低廉なLNGの調達や工事体制の強化に取り組み、ガス製造・供給設備の災害対策やセキュリティ向上に加え、お客さま設備の安全対策の確実な実施など、お客さまの安心・安全の確保に向けた取り組みを着実に進めるとともに、ガスの自由化における競合にも万全を期してまいります。

#### < 電力事業の推進 >

当社グループ一丸となって営業活動を展開した結果、累計件数は契約ベースで17万件を突破し、北海道内全ての市町村（1）のお客さまへ「北ガスの電気」を供給しております。引き続き、更なる普及拡大を実現するため、当社グループのガスをお使いのお客さまに対する営業活動の強化に加え、ガス供給エリア外の北海道全域に「北ガスの電気」を浸透させてまいります。

一方、電源の整備・調達につきましては、「北ガス石狩発電所」が一昨年10月に運転を開始し、環境にやさしい天然ガスを燃料とした高効率発電により、環境性、経済性に優れた電源を安定的に供給しております。このような大型電源に加え、昨年6月から、本社ビル地下に設置した「北ガス札幌発電所」により、自立分散型エネルギーとして、地域へのエネルギー安定供給、環境負荷低減を図るとともに、地域のまちづくり計画にも貢献しております。

また、分散型電源であるガスコージェネレーションシステムやガスマイホーム発電、また、当社が事業参画している「苫小牧バイオマス発電所」をはじめとする地産地消の環境負荷が少ない電源を活用することに加え、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）の期間満了に伴い余剰電力の買取サービスを積極的に進めるとともに、風力発電等の再生可能エネルギーの利用を進めるなど、高効率で環境にやさしい電源構成を目指してまいります。

<総合エネルギーサービス事業の全道展開>

当社では、省エネルギーを推進することにより、経済合理性を追求しながら低炭素社会へ貢献するという理念に基づき開発した当社独自のエネルギーマネジメントシステム「EMINEL（エミネル）<sup>2</sup>」によりガス（給湯・暖房）や電気のデータの見える化、暖房の省エネ自動運転や省エネアドバイスに加え、マルチセンサーを活用した「警備会社による駆けつけサービス」をはじめとする各種サービスをご提供し、普及拡大を進めております。

また、北海道初のCEMS（セムス）<sup>3</sup>による供給開始など、道内各自治体とともに「まちづくり」と一体となった効率的で環境性・持続性に優れた「地産地消型エネルギーモデル」を推進しております。

このような当社独自のエネルギーマネジメントシステムを、北海道全域に広く普及拡大することにより、当社グループの持続的な成長を実現するとともに、地域のエネルギー利用の効率化を図り、地域が抱える課題や深刻化する地球環境問題の解決に貢献してまいります。

当社グループは「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」という理念のもと、「総合エネルギーサービス事業」を展開することにより、地域社会の発展と環境負荷の低減に貢献し、ともに成長する企業グループを目指してまいります。

1：離島を除く175市町村

2：EMINEL(Energy Management for INteractive Eco Life)

住まいのエネルギー利用を最適にコントロールする最新技術を活用したエネルギーシステム

お客さまとの双方向コミュニケーションを通じて、快適便利で経済的な暮らしと、省エネ・低炭素化による環境に優しい北海道のエネルギー社会を実現。

3：CEMS (Community Energy Management System)

地域全体のエネルギー利用を最適にコントロールする最新技術を活用したエネルギーシステム

北ガス工場跡地を含む「北4東6周辺地区」において天然ガスコージェネレーションと再生可能エネルギー

（太陽熱・地中熱）を活用し、ICTを利用したエネルギーセンターの最適運転により、周辺地区に電気と熱を供給。また、自立型のエネルギー供給システムにより、災害時もエネルギーの供給を継続し、災害に強いまちづくりを支援。

目標とする経営指標

2016中期経営計画における目標は次のとおり。

項目	目標（2020年度の姿）
自己資本比率	30%
ROE	8%

## 2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。

### (1) 自然災害による影響

大規模な自然災害により、LNG基地等の製造設備やガス導管等の供給設備に被害が発生した場合、都市ガスの供給に支障を及ぼす可能性があります。また、不測の大規模な停電が発生した場合、ガスの需要量や製造・供給設備の状況によっては、ガスの製造・供給に支障を及ぼす可能性があります。

当社グループは大規模な自然災害に対して、ガス導管の耐震化など製造・供給設備等の耐震性向上を図るとともに、事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の策定や、自家発電設備などの防災設備を整備することで、災害による影響を最小限に止める対策を実施しております。

### (2) 原料調達に関する不測の事態

LNGや天然ガス等の原料調達に関して不測の事態が生じ長期にわたり調達ができない場合には、都市ガスの供給に支障を及ぼす可能性があります。

都市ガス原料の大半を占めるLNGは海外からの輸入に頼っていますが、複数の長期契約で供給源を特定しないポートフォリオ契約で調達しており、供給プロジェクトのトラブルやLNG船のトラブル時にも代替調達が可能となっています。また、長期契約だけでなく、短期・スポット調達も組み合わせることにより、安定的かつ柔軟なLNG調達に取り組んでおります。

### (3) ガス事故による影響

ガス事故の発生により、お客さま被害が発生した場合、対応に要する直接的費用の発生に加え、社会的信用の低下等により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、供給防災センターに全社保安指令機能を集約し、専任要員が24時間対応することに加え、グループ会社を含めた保安処理体制構築、消防機関等との連携により、ガス事故の対応力強化に努めております。

### (4) 国策や制度の変更による競争激化

国策や制度の変更により、ガス業界に対する規制が変更された場合、エネルギー間競争の激化によるお客さまの離脱や販売価格低下を招き、業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、ガス、電気、熱、再生可能エネルギーの最適利用とデジタル技術の高度活用を通じた「持続性」「環境性」「経済性」に優れたエネルギーシステムの導入やエネルギーの地産地消など総合エネルギー事業を推進するとともに、安心安全を第一に保安の強化やサービスの向上に取り組むことでお客さまに選択されるよう努めております。また、国策や制度、業界動向などの環境変化に加え、お客さまのニーズを掴むよう、お客さまや関係機関との絶えず緊密な対話に努めております。

### (5) ガス消費機器・設備に関するトラブル

消費機器・設備に関する重大な不具合が発生した場合、対応に要する直接的費用の発生に加え、社会的信用の低下等により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、お客さまへの定期保安巡回の強化、ガス安全機器の取替や警報機設置の促進、ガス機器の安全操作の周知等により、保安の強化に努めております。

### (6) 気温影響によるガス需要の変動

当社グループの売上高の過半が都市ガスおよびLNG販売によるため、気温の推移が平年値から乖離する等によりガス需要が想定から変動した場合、業績等に影響を及ぼす可能性があります。特に、積雪寒冷地の北海道では、冬季から春先にかけて需要が大きくなるため、当該期間の気温推移が業績に与える影響は大きくなる傾向があります。ガス事業基盤の強化を進め、気温による業績への影響の軽減に取り組んでまいります。

(7) 商品・技術開発の遅延

積雪寒冷地に適した機器や次世代エネルギー技術などの開発を進めておりますが、遅延が生じた場合、事業遂行に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、商品に対するお客さまの使用感や要望等についての定期的なアンケート調査や、機器の使用状況に関するデータ計測、市場環境の各種情報収集等により、お客さまのニーズや商品の課題、社会環境の変化等の的確な把握に努めております。そのうえで、新商品・技術を適切なタイミングに遅延なく市場投入できるよう、開発メーカーや地域の大学と密に連携をはかり、数年先までの工程を共有しながら商品・技術の企画・開発に取り組んでおります。

(8) 法令変更・法的トラブル

当社グループは法令順守を経営の基本におき事業活動を行っております。ガス事業法をはじめとした関係法令の改正への対応が遅れた場合や、法的な問題や争いが生じた場合、対応に要する直接的間接的費用の発生に加え、社会的信用の低下等により、事業遂行に影響を及ぼす可能性があります。そのため、法改正情報の社内周知・啓蒙や、顧問弁護士との連携強化を図るなど、これらのリスクを未然に防ぐよう努めております。

(9) 原材料調達価格の変動

原材料価格が、原油価格・為替・市場相場等の変動によって高下した場合、業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。都市ガスの主要原料であるLNGの売買契約のうち、原油価格に連動するものについては、原油価格の変動により業績に影響を及ぼす可能性があります。また、ドル建てで売買契約を締結しているものについては、円・ドル為替の変動が業績に影響を及ぼす可能性があります。

ただし、原料価格が変動しても、変動分については、ガス料金に反映する「原料費調整制度(注)」を適用しているため、中長期的には業績への影響は軽微であります。

(注)調整額の上限は設定されております。

(10) 取引先の信用問題や事故等

取引先の倒産や事故等があった場合、債権未回収や業務支障を招き、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 設備投資による影響

ガス事業の性質から、業容拡大や増産を目的とした大規模な設備投資の実施により、費用負担が増加し、一時的に業績に影響を及ぼす可能性があります。また係る設備投資が、その後の経済情勢の変化等により、所期の成果を出せないことで、有利子負債依存度が高まる可能性があります。

(12) 資金調達・資産運用

市況や金融の混乱により資金調達や資産運用の悪化が発生した場合、財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、資金調達先や年金資産運用先については多様化を図っております。また、有利子負債は、長期で固定化した資金調達とすることで、借入期間中の金利変動リスクを限定的にするよう備えております。

(13) 個人情報等の社内情報の流出

当社グループでは、お客さま情報をはじめとした、多くの個人情報や営業機密情報を有しております。それらの社内情報が不適切な形で外部流出した場合、対応に要する直接的な費用にとどまらず、当社グループの社会的信用の低下等、有形無形の損害が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、情報を管理する上での各種規程を整備するとともに、グループ全体を対象とした情報セキュリティ推進体制を構築し、情報セキュリティに関する教育・啓発や自主点検を実施しております。また、誤操作等による情報漏えいを防止するための体系的な対策の実施等、個人情報等の流出防止に取り組んでおります。

(14) 業務システム・通信回線の不具合

業務システムや通信回線の不具合により、業務処理の誤りや業務停滞を引き起こした場合、有形無形の損失が発生し、業績や事業遂行に影響を及ぼす可能性があります。

業務システムのサーバーは、津波の心配がなく耐震性に優れた施設が完備されているデータセンターに設置し、運用・監視業務を委託しております。またデータは、毎夜、日次バッチ処理後にデータバックアップを実施し、特に重要なデータについては、別拠点のデータセンターにて遠隔バックアップを行っております。

一方、グループ会社を含めた主要拠点間の通信設備は、故障時にも通信が途切れることのないように冗長化しております。また、何らかの原因で通信設備が利用できない場合でも、インターネット回線を利用して外部から安全にアクセスすることができるルートを用意しております。

(15) コンプライアンス違反

法令、定款に照らして不適切な行為、ならびに企業倫理、社会規範に反する行為が発生した場合は、対応に要する直接的な費用にとどまらず、当社グループの社会的信用の低下等、有形無形の損失が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、倫理・法令遵守の基本的な考え方として「倫理方針」「倫理行動指針」を定めるとともに、コンプライアンス遵守に関する教育・啓発等により、グループ全体でコンプライアンス向上に取り組んでおります。また、内部監査により、その遵守状況の確認を行っております。

(16) サイバー攻撃

日々発生するサイバー攻撃は、巧妙化、高度化しており、その対策が十分ではない場合、基幹システムの停止・動作不良、社内情報の流失等が発生し、業務やお客さまへの対応が停滞するばかりではなく、当社グループの社会的信用の低下等、有形無形の損失が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、体系的な各種セキュリティ対策の実施やインシデント対応訓練を実施する他、適宜、情報セキュリティの脆弱性に関する確認を行い防御策の見直しを行う等、サイバー攻撃への対策に取り組んでおります。

(17) 新型コロナウイルス・新型インフルエンザなど感染症拡大による影響

当社グループの従業員に感染拡大した場合、一時的に業務が停止し、事業活動や業績に影響を及ぼす可能性があります。従業員の感染に関する取り組みとして、マスク着用、訪問時の消毒の徹底に加え作業中の換気など感染防止について対策するとともに、従業員の健康安全確保のため時差出勤やテレワーク、工場・保安要員への緊急応援体制整備などの必要な対策を講じております。

感染拡大による影響が長期化した場合、販売量減少による財政状況の悪化、商材等のサプライチェーンの遅延、債権回収不能など複合的な影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績

当連結会計年度における北海道経済は、個人消費が持ち直しの動きを維持するとともに、企業の設備投資や公共投資が増加したことなどにより緩やかな回復基調で推移したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大により、先行きは不透明な状況が続いております。

一方、エネルギー業界におきましては、電力・ガスの小売り全面自由化が進み、地域を超えたエネルギー間の相互参入や異業種からの参入が進んでおります。また、北海道においてもガス事業への新規参入の動きが顕在化するなど、当社グループを取り巻く環境は一層厳しさを増すものと見ております。

このような状況のもと、当社グループは、ガスの販売拡大を中心とした積極的な営業活動や保安の強化に取り組むとともに、自社電源であります「北ガス石狩発電所」に加え、「北ガス札幌発電所」の新たな稼働や、当社独自のエネルギーマネジメントシステム「EMINEL（エミネル）」のサービスの普及拡大、北海道内の自治体との連携によるエネルギー地産地消の拡大等、「総合エネルギーサービス事業」の本格展開に向けた取り組みを着実に進めてまいりました。

連結売上高につきましては、電力事業の増収等により、前連結会計年度に比べ4.3%増の126,375百万円となりました。

また、経常利益は、新社屋移転関連費用の増加等があったものの、器具販売の増益等に加え、連結子会社における修繕引当金の戻入益316百万円を計上したことにより、同23.0%増の5,194百万円となりました。前連結会計年度では、特別利益として固定資産売却益657百万円を計上してはりましたが、当連結会計年度では特別損益の計上がなかったことから、法人税等を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、同12.9%増の3,954百万円となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

##### ガス

当連結会計年度末のお客さま件数は、前連結会計年度に比べ新設件数が5期連続で1万件を超えるなど、前連結会計年度末に比べ1.0%増加し、7期連続の純増となる同6,056件増の583,819件となりました。

都市ガス販売量は、家庭用につきましては、お客さま件数の増加や給湯や暖房を含め幅広い用途でガスをご利用のお客さまが増加したことに加え、気温影響等により、同4.5%増の201百万 $\text{m}^3$ となりました。業務用につきましては、大型工場の稼働や新規ホテル開業、大型物件の設備更新等による販売量の増加等により、同1.7%増の383百万 $\text{m}^3$ となりました。以上の結果、他のガス事業者向け卸供給を含めました総販売量は2.8%増の594百万 $\text{m}^3$ となりました。

ガス全体の売上高は、販売量の増加等で都市ガス事業は増収となったものの、LNG販売が減収となったため、同0.2%減の68,348百万円となりました。

セグメント利益は、製造設備の定期点検や新社屋移転関連費用の増加等により、同12.1%減の3,853百万円となりました。

##### 電力

当連結会計年度末のお客さま件数は、接点機会を活用した営業活動に加え、道内の都市ガス事業者との協業等により獲得件数を着実に伸ばした結果、前連結会計年度末に比べ23.9%増加し、32,999件増の171,352件となりました。売上高は、お客さま件数が増加したことや電力卸売の増加に伴う販売量の増加等により、前連結会計年度に比べ13.3%増の27,761百万円となりました。

セグメント利益は、発電所の効率的な運転等、調達減価の低減に努めたものの、発電所設備の減価償却費や経費の増加等により、同7.2%減の1,209百万円となりました。

#### エネルギー関連

売上高は、原料費調整制度による販売単価の低下により、LPG事業が減収となりましたが、熱供給事業や工事・器具販売等の増収等により、前連結会計年度に比べ4.8%増の32,765百万円となりました。

セグメント利益は、LPG事業の減益があったものの工事・器具販売等の増益等により、同75.0%増の1,697百万円となりました。

#### その他

売上高は、ITサービス事業の増収等により、前連結会計年度に比べ24.4%増の2,225百万円となり、セグメント利益は同40.3%増の279百万円となりました。

#### (目標とする経営指標の実績)

2019年度における当社グループの経営指標の実績は下記の通り。

「自己資本比率」：32.2%

「ROE」：8.5%

継続的かつ安定的に目標を達成できるよう、引き続き、2016中期経営計画に取り組んでまいります。

#### (新型コロナウイルス感染症の流行拡大・原油価格の下落の影響)

当連結会計年度においては、新型コロナウイルス感染症の流行拡大や、これに起因した原料価格の急落が当社の業績に与える影響は軽微でありましたが、翌連結会計年度以降につきましては、新型コロナウイルス感染症流行拡大の影響により、インバウンド需要の減退や工場等の稼働率の低下など数年程度影響を受けるものと想定しております。家庭用への影響は軽微なものと想定しておりますが、ガス販売量の約3分の2を占める業務用(商業用や工業用等)の一部については影響があるものと見込んでおります。なお、翌連結会計年度の都市ガス販売量の見通しは当連結会計年度に比べ2.4%減の5億8千万m<sup>3</sup>としております。

原油価格の変動は、ガス販売単価や原料費に反映されるため、当社の業績へ影響を与えます。なお、ガス販売単価・原料費に反映されるタイミングにはタイムラグがあるため、一時的な損益影響が出る場合がありますが、中長期的には原料費調整制度により軽微なものとなります。

以上の状況を踏まえ、翌連結会計年度の経常利益は、当連結会計年度に比べ42.2%減の3,000百万円としております。ただし、業績予想の算定における前提に差異が生じた場合等には、実績が予想値から大きく乖離する可能性があります。今後の業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となる場合には、速やかに開示いたします。

- (注) 1 本書面では、ガス量はすべて1m<sup>3</sup>当り45メガジュール(10,750キロカロリー)で表示しております。  
2 消費税については税抜方式を採用しております。

#### (2) 財政状態

当連結会計年度末の総資産につきましては、連結子会社における製造設備の譲渡等により固定資産は減少となりましたが、原材料等の流動資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ778百万円増加し、150,345百万円となりました。負債は、有利子負債が増加したものの、未払金等の減少により、前連結会計年度末に比べ2,723百万円減少し、99,933百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ3,501百万円増加し、50,411百万円となりました。



### (3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末の借入金・社債等の残高は前連結会計年度末に比べ568百万円増加し、79,900百万円となり、現金及び現金同等物の期末残高は前連結会計年度末に比べ160百万円減少し、1,537百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは仕入債務の増加等により、前連結会計年度に比べ3,043百万円増加し、15,405百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは有形固定資産の取得による支出の減少等により、同626百万円支出額が減少し、15,213百万円の支出となりました。これらを合計した当期のフリー・キャッシュ・フローは192百万円のプラスとなりました。

また、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、353百万円の支出となりました。

投資活動に必要な資金は営業活動によるキャッシュ・フローの範囲内となりましたが、運転資金等による短期借入金の増加等により有利子負債は増加となりました。翌連結会計年度以降の投資活動は営業活動によるキャッシュ・フローの範囲内で計画しております。

#### (資本の財源及び資金の流動性)

当社グループにおける資金需要は、主に、設備投資、有利子負債返済、運転資金になります。

資金調達に関しては、減価償却費等の自己資金を優先して充当し、設備投資の内容に則し、都度有利な調達手段を選択しております。期中に必要となる運転資金に関しては、マーケットの状況に合わせ、短期借入金、短期社債(電子CP)等を織り交ぜながら調達しております。導管投資など設備投資に充当する資金は、将来の金利上昇リスクに備え、社債、長期借入などの長期資金で調達いたします。なお、当連結会計年度末における有利子負債残高は79,900百万円となっております。また、現預金残高は1,537百万円となっております。

#### (資金調達について)

当社グループは安定的かつ効率的な資金調達を行うとともに、資本コストの抑制として、低金利下の環境を生かし、長期で固定化した資金の調達を行っております。安定した資金調達は重要な経営課題と認識しており、資金調達の多様化を図るため、主要な取引先金融機関との良好な取引関係維持に加え、国内2社の格付機関から格付を取得しております。株式会社日本格付研究所の格付は、「シングルA(安定的)」、株式会社格付投資情報センターの格付は、「シングルA(安定的)」となっております。また、当社グループ内の資金は、CMS(キャッシュ・マネジメント・システム)の導入により効率的な資金管理を行っております。

(4) 生産、受注及び販売の実績

当社グループにおきましては、「都市ガス事業」が売上高及び営業費用共に連結財務諸表の大半を占めており、当該セグメントが当社グループの生産、受注及び販売活動の中心となっております。

以下は、「都市ガス事業」における当社の生産、受注及び販売の実績について記載しております。

生産実績

当連結会計年度における生産実績は次のとおりであります。

区分		生産量(千m <sup>3</sup> )	対前年増減率(%)
都市ガス	石狩LNG基地	551,801	2.8
	函館みなと工場	48,768	4.5
	北見工場	9,406	7.5
	計	609,975	3.0

受注実績

都市ガス事業については、その事業の性質上、受注生産を行っておりません。

販売実績

都市ガス販売実績

当連結会計年度における都市ガス販売実績は次のとおりであります。

区分		販売量	対前年増減率(%)
都市ガス	家庭用	201,231千m <sup>3</sup>	4.5
	その他	383,131千m <sup>3</sup>	1.7
	計	584,362千m <sup>3</sup>	2.7
	他事業者向け供給	10,261千m <sup>3</sup>	10.8
	総販売量	594,622千m <sup>3</sup>	2.8
月平均調定件数		467,021件	1.3
調定件数1件当たり月平均販売量		104.3m <sup>3</sup>	1.3

区分		販売高(千円)	対前年増減率(%)
都市ガス	家庭用	27,773,393	1.6
	その他	29,835,398	0.9
	計	57,608,792	1.3

お客さま件数及び普及率

2020年3月末における地区別お客さま件数及び普及率は次のとおりであります。

地区別	世帯数(世帯)	お客さま件数(件)	普及率(%)
札幌地区	875,208 (1.1)	448,995 (1.3)	51.3 (0.2)
函館地区	114,229 (0.3)	64,584 (0.2)	56.5 (0.0)
小樽地区	45,397 (0.9)	32,093 (0.5)	70.7 (0.4)
千歳地区	45,938 (1.9)	20,406 (1.5)	44.4 (0.4)
北見地区	43,882 (0.3)	17,741 (1.3)	40.4 (1.0)
計	1,124,654 (0.9)	583,819 (1.0)	51.9 (0.2)

(注) 1 お客さま件数は、ガスメーター取付数によっております。

2 世帯数は、供給区域の住民基本台帳及び各自治体の資料から推計した一般世帯数であります。

3 ( )内数値は対前年増減率(%)であります。

都市ガス料金

供給約款料金に対しては、下記の料金が適用されます。この区分による a 基本料金および b 従量料金の合計とし、各月の使用量に応じて A・B・C・D・E のいずれかの料金表が適用されます。また、一般ガス供給約款で定める料金以外に、選択約款による料金や個別交渉による大口向けの料金があります。

なお、当社は、「消費税法の改正」に伴い、2019年10月1日よりガス料金を変更いたしました。これは2019年10月1日からの消費税法の改正による消費税率10%への引き上げを反映させたものです。これにより、ガス料金への新税率10%の適用開始は、消費税法の経過措置により9月以前から継続してガスをご使用の場合は11月検針分から、10月1日以降に新規でガスをご使用になる場合は10月検針分からとなります。

(2019年9月30日までの適用料金)

a 基本料金

基本料金は、1か月につき次のとおりであります。

料金表種別	1か月の使用量	基本料金(税込) (ガスメーター1個につき)
A	0 m <sup>3</sup> から15m <sup>3</sup> まで	928.80円
B	15m <sup>3</sup> を超え50m <sup>3</sup> まで	1,427.76円
C	50m <sup>3</sup> を超え200m <sup>3</sup> まで	1,976.40円
D	200m <sup>3</sup> を超え800m <sup>3</sup> まで	7,560.00円
E	800m <sup>3</sup> を超える場合	9,720.00円

b 従量料金

従量料金は、使用量に次の単位料金を乗じて算定しております。

料金表種別	1か月の使用量	基準単位料金(税込) (1 m <sup>3</sup> につき)
A	0 m <sup>3</sup> から15m <sup>3</sup> まで	197.04円
B	15m <sup>3</sup> を超え50m <sup>3</sup> まで	163.78円
C	50m <sup>3</sup> を超え200m <sup>3</sup> まで	152.80円
D	200m <sup>3</sup> を超え800m <sup>3</sup> まで	124.89円
E	800m <sup>3</sup> を超える場合	122.19円

(注) 1 支払期限日(検針日の翌日から30日目)を経過した後に支払われる場合には、その経過日数に応じて1日当たり0.0274%の割合で算定した延滞利息が発生します。

2 上記の料金は1 m<sup>3</sup>当たり45M Jです。なお、消費税8%分が含まれております。

3 当社は、為替レートや原油価格など外的な要因で変動する原料価格をガス料金に反映する原料費調整制度を導入しております。2019年4月から2019年9月までの調整額は次のとおりであります。

検針月	1 m <sup>3</sup> 当たり調整額(税込)
2019年4月	-1.55円
2019年5月	-2.18円
2019年6月	-3.54円
2019年7月	-5.45円
2019年8月	-7.81円
2019年9月	-10.53円

(2019年10月1日からの適用料金)

a 基本料金

基本料金は、1か月につき次のとおりであります。

料金表種別	1か月の使用量	基本料金(税込) (ガスメーター1個につき)
A	0m <sup>3</sup> から15m <sup>3</sup> まで	946.00円
B	15m <sup>3</sup> を超え50m <sup>3</sup> まで	1,454.20円
C	50m <sup>3</sup> を超え200m <sup>3</sup> まで	2,013.00円
D	200m <sup>3</sup> を超え800m <sup>3</sup> まで	7,700.00円
E	800m <sup>3</sup> を超える場合	9,900.00円

b 従量料金

従量料金は、使用量に次の単位料金を乗じて算定しております。

料金表種別	1か月の使用量	基準単位料金(税込) (1m <sup>3</sup> につき)
A	0m <sup>3</sup> から15m <sup>3</sup> まで	200.69円
B	15m <sup>3</sup> を超え50m <sup>3</sup> まで	166.81円
C	50m <sup>3</sup> を超え200m <sup>3</sup> まで	155.63円
D	200m <sup>3</sup> を超え800m <sup>3</sup> まで	127.20円
E	800m <sup>3</sup> を超える場合	124.45円

- (注) 1 支払期限日(検針日の翌日から30日目)を経過した後に支払われる場合には、その経過日数に応じて1日当たり0.0274%の割合で算定した延滞利息が発生します。
- 2 上記の料金は1m<sup>3</sup>当たり45M Jです。なお、消費税10%分が含まれております。
- 3 当社は、為替レートや原油価格など外的な要因で変動する原料価格をガス料金に反映する原料費調整制度を導入しております。2019年10月から2020年3月までの調整額は次のとおりであります。

検針月	1m <sup>3</sup> 当たり調整額(税込)
2019年10月	-11.65円
2019年11月	-11.37円
2019年12月	-11.55円
2020年1月	-11.83円
2020年2月	-12.66円
2020年3月	-12.29円

(5) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成しております。重要な会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載しております。連結財務諸表の作成にあたっては、過年度実績や経営計画、入手可能で合理的な情報に基づく仮定等から会計上の見積りを行っておりますが、見積りは不確実性を伴うため、実際の結果は異なる場合があります。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

当社は、長期に安定した原料調達を行うため、石狩LNG基地向け「LNG売買契約」を東京瓦斯株式会社と締結しており、その契約の期限は2022年度で、調達数量は年間30～40万tを予定しております。

なお、石狩LNG基地について下記の通り賃貸借契約を締結しております。

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約品目	契約期間
北海道ガス株式会社	石狩LNG棧橋株式会社	賃貸借契約	機械設備等	2018年7月31日から 2038年3月31日まで
北海道LNG株式会社	東銀リース株式会社	賃貸借契約	〃	2012年12月3日から 2022年12月2日まで
北海道ガス株式会社	北海道LNG株式会社	転貸借契約	〃	2012年12月3日から 2022年12月2日まで
北海道ガス株式会社	北海道LNG株式会社	賃貸借契約	〃	2012年12月1日から 2022年11月30日まで

#### 5 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は、当社が主に都市ガス事業において行っており、「技術開発研究所」を中心に、積雪寒冷地に適したエネルギー利用機器の開発やエネルギー利用技術の研究を実施しております。当連結会計年度における研究開発費は290,430千円であります。

「技術開発研究所」の基本理念を以下に示します。

- 寒冷地技術の研究開発を推進し、技術の蓄積・普及を図ります。
- エネルギー利用技術の高度化を追求し、環境負荷低減に努めます。
- 低炭素社会の実現に向けたエネルギー技術への対応を図ります。
- 地域社会と密接な交流を深めつつ、北国の生活文化に貢献します。

これらの基本理念に基づき、他企業・大学等の外部研究機関・行政とも協力し、研究開発活動を推進しております。

主な研究内容は、以下のとおりであります。

##### (1) 寒冷地向けガス機器及びマイホーム発電の商品開発

- 家庭用燃料電池「エネファーム」の寒冷地仕様開発
- 家庭用ガスエンジンコージェネレーション「コレモ」の開発
- 高効率給湯暖房機エコジョーズの最適化開発
- 小口業務用市場に最適な機器の開発

##### (2) 次世代エネルギーシステムの技術開発

- 太陽光発電・蓄電池とマイホーム発電の最適連携に関する研究
- 寒冷地におけるデシカント（除湿）換気システムの研究
- AI（人工知能）による画像認識を用いた融雪システムの研究（北海道大学との共同研究）
- お客さまのエネルギー利用状況に関する調査研究

##### (3) ガス事業基盤の強化に向けた取り組み

- ガス導管の保安レベル、施工性向上とコスト低減に貢献する技術・工法開発
- IoTを活用したガス供給インフラのローコストオペレーションに関する研究
- ガス機器の品質・信頼性向上に向けた取り組み

##### (4) 低炭素で持続可能な社会の実現に向けた研究

- 北海道の持続可能なエネルギーシステム構築のためのシナリオ解析（北海道大学との共同研究）
- 北海道のスマートエネルギーネットワーク構築におけるコージェネレーション群の有効活用に関する研究（北海道大学との共同研究）

(5) その他

工学系若手研究者支援を目的とした「北海道ガス大学研究支援制度」の実施  
ビッグデータを活用した情報の利用高度化

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、ガス事業を中心に、ガス需要の増加に対し、効率的かつ長期的な安定供給及び製造体制を確保するため、当連結会計年度は15,864,472千円の設備投資(有形固定資産の他、無形固定資産、長期前払費用、繰延資産を含む)を実施しております。セグメント別の設備投資の内訳は、次のとおりであります。

	当連結会計年度	前年同期比
ガス	11,125,645 千円	43.3 %
電力	1,001,213	31.9
エネルギー関連	3,566,247	53.3
その他	13,554	204.1
計	15,706,660 千円	6.9 %
全社(共通)又は消去	157,811 千円	92.3 %
合計	15,864,472 千円	16.1 %

設備投資の大半を占めている当社の当連結会計年度の主な設備投資等には、導管6,281,820千円、北ガスグループ本社ビルへの投資2,437,213千円等があり、所要資金については、自己資金及び借入金によっております。

## 2 【主要な設備の状況】

## (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
		建物及び 構築物	機械装置	導管及び メーター	土地 (面積㎡)	その他		合計
製造設備								
石狩LNG基地 (石狩市)	ガス	1,220,714	10,484,877	[ - ]	5,078,886 (98,226)	78,971	16,863,449	51 (18)
函館みなと工場 (函館市)	ガス	410,008	117,758	[ - ]	338,478 (20,404)	6,666	872,911	14 (0)
北見工場 (北見市)	ガス	456,329	381,053	[ - ]	[ - ] [7,607]	1,888	839,271	8 (4)
供給設備								
札幌地区 (札幌市中央区他)	ガス	773,151	892,921	23,138,726	1,801,013 (206,609) [7,298]	79,696	26,685,508	103 (29)
函館地区 (函館市)	ガス	50,191	111,756	4,632,426	1,201,550 (17,250) [156]	13,165	6,009,089	23 (3)
小樽地区 (小樽市)	ガス	12,439	39,316	1,930,645	413,735 (24,052)	7,712	2,403,848	12 (4)
千歳地区 (千歳市)	ガス	181,024	255,160	2,437,067	150,468 (13,439) [1,923]	7,742	3,031,462	13 (5)
北見地区 (北見市)	ガス	[ - ]	24,259	2,674,545	598 (27)	11,142	2,710,545	19 (7)
業務設備								
札幌地区 (札幌市中央区他)	ガス	6,111,581	65,669	[ - ]	3,614,922 (357,598)	889,989	10,682,162	402 (104)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品、車両運搬具及びリース資産であり、建設仮勘定を含んでおりません。金額には消費税等を含みません。
- 2 土地及び建物の一部を賃借しております。連結会社以外から賃借している土地の面積については、〔 〕で外書きしております。
- 3 現在休止中の主要な設備はありません。
- 4 従業員数の( )は、臨時従業員数を外書きしております。
- 5 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	年間賃借料又は リース料 (千円)	賃借又は リース契約残高 (千円)
全社 (札幌市等)	ガス	車両	25,173	91,177
北見地区 (北見市)	ガス	建物	5,288	76,679
札幌地区 (札幌市)	ガス	建物	422,558	14,699,880



## (2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置	導管及び メーター	土地 (面積㎡)	その他	合計	
北海道LNG(株)	石狩LNG 基地 (石狩市)	ガス	LNG設備	1,887,378	2,596,026	—	—	490	4,483,895	3 (3)
北ガス ジェネックス(株)	ボンベ庫等 (札幌市内 各所他)	エネルギー 関連	その他 の設備	345,995	349,001	2,306,230	1,110,507 (38,904)	563,080	4,680,814	—
株北海道熱供給公社	中央 エネルギー センター (札幌市 東区)	エネルギー 関連	その他 の設備	2,674,680	677,919	1,759,029	436,013 (11,641)	6,085	5,553,729	20 (6)

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品、建物付属設備及びリース資産であり、建設仮勘定を含んでおりません。金額には消費税等を含みません。

2 現在休止中の主要な設備はありません。

3 従業員数の( )は、臨時従業員数を外書きしております。

4 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は下記のとおりであります。

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	年間賃借料又は リース料 (千円)	賃借又は リース契約残高 (千円)
北海道LNG(株) (札幌市中央区)	ガス	LNG設備関連	1,067,538	2,846,768

## (3) 在外子会社

該当する子会社はありません。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループにおきましては、「ガス事業」が売上高及び営業費用共に連結財務諸表の大半を占めており、当社の生産及び販売活動がその中心となっております。そのため、重要な設備の新設等に係る設備は当社の設備投資計画をもとに記載しております。

当社の当連結会計年度後1年間の設備の新設・改修等に係る投資予定金額は、11,008,155千円であります。その所要資金については、自己資金でまかなう予定であります。

重要な設備の新設、除却等の計画は、以下のとおりであります。

## (1) 重要な設備の新設等(提出会社)

セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額(千円)				資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
		総額	既支払額	2020年度 支払予定額	2020年度以 降支払予定額				
ガス	導管増設等	-	-	5,971,270	-	自己資金	2020年 4月	2021年 3月	2020年度 58km

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 重要な設備の除却等(提出会社)

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,737,806	17,737,806	東京証券取引所 (市場第一部) 札幌証券取引所	単元株式数は100株でありま す。
計	17,737,806	17,737,806		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

当該制度は、会社法第236条、第238条及び第240条の規定に基づく株式報酬型ストック・オプションとして、  
当社の取締役、執行役員、顧問、参与及び従業員に対して新株予約権を割当てるものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	2015年4月28日	2016年4月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 6名 (社外取締役を除く) 当社執行役員 5名 当社顧問 2名 当社参与 3名	当社取締役 6名 (社外取締役を除く) 当社執行役員 7名 当社参与 2名
新株予約権の数(個)	398(注)1	432(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、 内容及び数(株)	普通株式 7,960(注)2	普通株式 8,640(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株あたり1(注)3	1株あたり1(注)3
新株予約権の行使期間	2017年5月14日～2032年5月13日	2018年5月14日～2033年5月13日
新株予約権の行使により株式を発行す る場合の株式の発行価格及び資本組入 額(円)	発行価格 1,085 資本組入額 542.5(注)4	発行価格 1,045 資本組入額 522.5(注)4
新株予約権の行使の条件	(注)6	
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、 当社取締役会の決議による承認を要する。	
組織再編成行為に伴う新株予約権の 交付に関する事項	(注)5	

決議年月日	2017年4月28日	2018年4月27日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 6名 (社外取締役を除く) 当社執行役員 7名 当社参与 2名	当社取締役 6名 (社外取締役を除く) 当社執行役員 7名 当社参与 2名
新株予約権の数(個)	427(注)1	358(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 8,540(注)2	普通株式 7,160(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株あたり1(注)3	1株あたり1(注)3
新株予約権の行使期間	2019年5月16日～2034年5月15日	2020年5月15日～2035年5月14日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,030 資本組入額 515(注)4	発行価格 1,165 資本組入額 582.5(注)4
新株予約権の行使の条件	(注)6	
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	

決議年月日	2019年4月26日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 6名 (社外取締役を除く) 当社執行役員 9名 当社参与 1名 当社従業員 1名
新株予約権の数(個)	421(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 8,420(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株あたり1(注)3
新株予約権の行使期間	2021年5月14日～2036年5月13日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,083 資本組入額 541.5(注)4
新株予約権の行使の条件	(注)6
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5

株式併合に伴い、新株予約権の目的となる株式の数は調整されており、1個あたり100株から20株に変更となっております。

当事業年度の末日(2020年3月31日)における内容を記載しております。提出日の前月末現在(2020年5月31日)において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を省略しております。

- (注)1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、20株であります。  
2 当社が当社普通株式の株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む)または株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割または株式併合の比率}$$

また、割当日以降、当社が合併または会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、当社の取締役会において必要と認められる付与株式数を適切に調整することができる。

- 3 各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、当該各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの金額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。
- 4 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
  - (1) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。
  - (2) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- 5 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る)、吸収分割もしくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る)または株式交換もしくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る)(以上を総称して以下、「組織再編行為」という)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう 以下同じ)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限る。
  - (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
  - (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
  - (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案の上、(注)2に準じて決定する。
  - (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定められる再編後行使価額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
  - (5) 新株予約権を行使することができる期間  
上表に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上表に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
  - (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
(注)4に準じて決定する。
  - (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。
  - (8) その他の新株予約権の行使の条件  
(注)6に準じて決定する。
- 6 その他の新株予約権の行使の条件
  - (1) 新株予約権者は、権利行使時において、当社または当社グループ会社の取締役または執行役員のいずれかの地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任その他正当な理由に基づき当社および当社グループ会社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した場合には、喪失した日から5年以内に限って権利行使することができる。
  - (2) 新株予約権者が死亡した場合、その者の相続人は、新株予約権を一括してのみ行使することができる。
  - (3) その他の条件については、当社と新株予約権者との間で締結する割当契約書に定めるところによる。

2020年4月30日の取締役会において決議されたもの

決議年月日	2020年4月30日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役(社外取締役を除く) 6名 当社執行役員 10名
新株予約権の数(個)	394
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 7,880
新株予約権の行使時の払込金額(円)	新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの行使価額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とします。
新株予約権の行使期間	[募集事項]6に記載しております。
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,165 資本組入額 582.5
新株予約権の行使の条件	[募集事項]7に記載しております。
新株予約権の譲渡に関する事項	[募集事項]10に記載しております。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	[募集事項]11に記載しております。

2020年4月30日に決議された新株予約権の募集事項については次のとおりであります。

[募集事項]

1. 新株予約権の名称 北海道瓦斯株式会社 第6回新株予約権
2. 新株予約権の総数 394個

上記総数は、割当予定数であり、引受けの申込みがなされなかった場合等、割当てる新株予約権の総数が減少したときは、割当てる新株予約権の総数をもって発行する新株予約権の総数とする。

3. 新株予約権の目的である株式の種類及び数

新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1個当たり20株とする。

ただし、新株予約権を割当てる日(以下、「割当日」という。)後、当社が普通株式につき、株式分割(当社普通株式の無償割当を含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合には、新株予約権のうち、当該株式分割又は株式併合の時点で行使されていない新株予約権について、付与株式数を次の計算により調整する。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割又は併合の比率}$$

また、上記の他、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、当社は、当社の取締役会において必要と認められる付与株式数の調整を行うことができる。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

4. 新株予約権の払込金額

新株予約権の払込金額は、新株予約権の割当日においてブラック・ショールズ・モデルにより算出した1株当たりのストック・オプションの公正な評価単価に、付与株式数を乗じた金額とする。

なお、新株予約権の割当てを受けた者(以下、「新株予約権者」という。)は、当該払込金額の払込みに代えて、当社に対する報酬債権をもって相殺するものとし、金銭の払込みを要しないものとする。

5. 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たりの金額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。

6. 新株予約権を行使することができる期間

2022年5月16日から2037年5月15日までとする。

## 7. 新株予約権の行使条件

新株予約権者は、権利行使時において、当社または当社グループ会社の取締役または執行役員のいずれかの地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任その他正当な理由に基づき当社および当社グループ会社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した場合には、喪失した日から5年以内に限りて権利行使することができる。

新株予約権者が死亡した場合、その者の相続人は、新株予約権を一括してのみ行使することができる。

その他の条件については、当社と新株予約権者との間で締結する割当契約書に定めるところによる。

## 8. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

## 9. 新株予約権の取得条項

新株予約権者が権利行使をする前に、上記7.の定め又は新株予約権割当契約の定めにより新株予約権を行使できなくなった場合、当社は当社の取締役会が別途定める日をもって当該新株予約権を無償で取得することができる。

当社は、以下イ、ロ、ハ、ニ又はホの議案につき当社の株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要の場合は当社の取締役会で承認された場合)は、当社の取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。

イ 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

ロ 当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案

ハ 当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案

ニ 当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

ホ 新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること又は当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

## 10. 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。

## 11. 組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割もしくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、株式交換もしくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立会社成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限る。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記3.に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記6．に定める新株予約権を行使することができる期間の初日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記6．に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記8．に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

新株予約権の行使条件

上記7．に準じて決定する。

新株予約権の取得条項

上記9．に準じて決定する。

12．新株予約権を行使した際に生ずる1株に満たない端数の取決め

新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てるものとする。

13．新株予約権の割当日

2020年5月15日

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2015年4月1日～ 2016年3月31日 (注1)	4,828,222	80,363,464	632,500	6,424,830	632,500	4,184,595
2016年4月1日～ 2017年3月31日 (注1)	2,339,673	82,703,137	306,500	6,731,330	306,500	4,491,095
2017年4月1日～ 2018年3月31日 (注1)	5,988,501	88,691,638	784,500	7,515,830	784,500	5,275,595
2018年10月1日 (注2)	70,953,311	17,738,327	-	7,515,830	-	5,275,595
2018年12月3日 (注3)	521	17,737,806	-	7,515,830	-	5,275,595

(注) 1. 転換社債の転換による増加

転換価格 262円

資本組入額 131円

2. 2018年6月26日開催の第172回定時株主総会における株式併合決議に基づく株式の併合であります。

3. 2018年10月31日の取締役会における自己株式消却決議に基づく株式の消却であります。

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	1	41	25	89	102	9	6,368	6,635	
所有株式数 (単元)	4,488	72,234	2,650	22,907	12,743	95	61,748	176,865	51,306
所有株式数 の割合(%)	2.54	40.84	1.50	12.95	7.21	0.05	34.91	100.00	

(注) 1. 自己株式129,514株は「個人その他」に1,295単元、「単元未満株式の状況」に14株含まれております。

なお、株式は、株主名簿記載の株式数であり、実保有株式数と同数であります。

2. 上記「単元未満株式の状況」の中には、証券保管振替機構名義の株式が80株含まれております。



(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,015	5.76
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	980	5.57
東京瓦斯株式会社	東京都港区海岸1丁目5-20	854	4.85
株式会社北海道銀行	札幌市中央区大通西4丁目1番地	685	3.89
株式会社北洋銀行	札幌市中央区大通西3丁目7	685	3.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	628	3.56
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	525	2.98
北海道信用農業協同組合連合会	札幌市中央区北四条西1丁目1番地	495	2.81
札幌市	札幌市中央区北一条西2丁目	448	2.54
北海道瓦斯従業員持株会	札幌市東区北七条東2丁目1-1	448	2.54
計	-	6,769	38.44

(注) 1 みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社の持株数525千株は、株式会社みずほ銀行が委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は、株式会社みずほ銀行が留保しております。

2 株式会社みずほ銀行より2019年3月25日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、2019年3月15日現在で同社を含む3社が、共同保有として以下の株式を実質保有している旨の報告を受けておりますが、2020年3月31日現在における各社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主の状況に含めておりません。なお、大量保有報告の内容は以下のとおりであります。

株式会社みずほ銀行	526 (千株)
みずほ証券株式会社	122
アセットマネジメントOne株式会社	528

3 日本生命保険相互会社より2015年7月7日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、2015年6月30日現在で同社を含む2社が、共同保有として以下の株式を実質保有している旨の報告を受けておりますが、2020年3月31日現在における各社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主の状況に含めておりません。なお、大量保有報告の内容は以下のとおりであります。

日本生命保険相互会社	1,055 (千株)
ニッセイアセットマネジメント株式会社	2

4 クレディ・スイス・セキュリティーズ(ヨーロッパ)リミテッドより2015年7月7日付で提出された大量保有報告書により、2015年6月30日現在で同社を含む5社が共同保有として以下の株式を実質保有している旨の報告を受けておりますが、2020年3月31日現在における各社の実質保有株式数は確認できていないため、上記大株主の状況に含めておりません。なお、大量保有報告の内容は以下のとおりであります。

クレディ・スイス・セキュリティーズ(ヨーロッパ)リミテッド	545 (千株)
クレディ・スイス・エイ・ジー	74
クレディ・スイス・ファンド・マネジメント・エスエー	45
クレディ・スイス・(ホンコン)リミテッド	1
クレディ・スイス証券株式会社	0

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 129,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,557,000	175,570	
単元未満株式	普通株式 51,306		
発行済株式総数	17,737,806		
総株主の議決権		175,570	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式14株が含まれております。  
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が80株含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 北海道瓦斯株式会社	札幌市東区北7条東2丁目 1番1号	129,500	-	129,500	0.73
計		129,500	-	129,500	0.73

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	835	1,332
当期間における取得自己株式	120	185

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取請求による株式数は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の売渡請求)	46	61		
保有自己株式数	129,514		129,634	

(注) 当期間における保有自己株式には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡請求及び株式報酬型ストック・オプションの行使による株式数は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社グループは、総合エネルギー事業の展開および安全高度化への取組みを前提に、一体となって営業力を強化し、収益の拡大を図るとともに、業務効率化とコストダウンを進めながらフリー・キャッシュ・フローの獲得に努め、企業価値の向上を図ってまいります。

剰余金の配当等につきましては、継続的かつ安定的に配当を行うことを基本方針といたします。年間配当につきましては、1株につき30円の配当額水準を確保し、連結配当性向につきましては、短期的な利益変動要因を除き、30%を下回らないことを当面の基準といたします。そのうえで、企業体質及び競争力の強化ならびに事業展開に必要な設備投資等のための内部留保と併せまして、株主のみなさまへの適切な利益還元に努めてまいります。

このような方針のもと、当事業年度の剰余金の配当につきましては、昨年10月30日開催の取締役会決議に基づき1株につき金25円の間配当を実施するとともに、期末配当につきましては、当事業年度の業績及び今後の事業展開等を総合的に勘案し、本年5月28日開催の取締役会において1株につき金25円と決定させていただきました。これにより、当事業年度における剰余金の年間配当につきましては、中間配当を含め1株につき金50円となります。当事業年度は電力事業を含めた総合エネルギーサービス事業の今後の展開等を勘案し、株主価値の維持・向上の観点から、年間配当を前事業年度の配当より1株当たり5円増配しております。

この結果、当期の配当性向は22.3%(個別配当性向36.0%)、株主資本当期純利益率8.5%、株主資本配当率は1.9%となりました。

なお、当社は中間と期末の年2回配当を行うこととし、取締役会の決議によって、中間配当は毎年9月30日、期末配当は毎年3月31日を基準日として配当を行う旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たりの配当金(円)
2019年10月30日 取締役会	440,221	25.0
2020年5月28日 取締役会	440,207	25.0

#### 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主様をはじめとする当社のステークホルダーの方々との円滑な関係の構築を通じて、企業価値や雇用の創造、さらに健全な企業経営の維持を目的にコーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

なお、当社は取締役会及び監査役会を中心とした経営管理体制のもとに、迅速な意思決定を図るべく、執行役員制度を導入し、外部環境の変化に柔軟に対応できる執行体制を整備しております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、経営に対する適正な監視を行うため監査役会を設置しており、一方、取締役会の意思決定・監督機能を強化し、併せて業務執行機能の強化と責任の明確化を図るため、執行役員制度を導入しております。また、中立・公正な立場での視点を経営に反映していただくため、複数の社外役員を選任しております。

当社の取締役会は、取締役8名、うち社外取締役2名で構成し、会社の重要事項に関する意思決定並びに取締役の業務執行状況の監督・チェックを行うとともに、子会社等を含めたグループ会社に対する監督・チェック機能の強化に努めております。

また、当社の取締役は10名以内とし、その選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数を持って行われる旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

当社の執行役員制度は、2006年6月の定時株主総会終了後に、取締役会の意思決定、監督機能を強化し、併せて業務執行機能の強化と責任の明確化を図るため、導入いたしました。社長執行役員を議長とする「経営会議」を原則毎週1回開催する中で、取締役会付議事項以外の業務執行に関する重要事項を決定しており、明確な責任のもと迅速な意思決定に努めております。

企業統治に関するその他の事項

当社の内部統制システムについては、以下の「内部統制システムの整備に関する基本方針」を取締役会で決議しております。

- a 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
  - イ 取締役および従業員は、反社会的な勢力に屈せず毅然とした対応をとることを含め、当社の定める倫理方針・倫理行動指針を遵守し、誠実かつ公正な事業運営を行う。
  - ロ 取締役会は、取締役会規則を定め、重要事項の意思決定を行うとともに、取締役および執行役員の職務執行を監督する。
  - ハ 取締役会は、社外取締役、社外監査役の招聘により、経営の客観性・透明性を確保する。
  - ニ 取締役は、財務報告にかかわる信頼性を確保するため、法令等に従い財務報告にかかわる内部統制の運用、評価を行う体制を整備する。
  - ホ 監査役は、取締役の職務執行に関して、監査役会で定める監査役監査基準に基づき、監査を行う。
  - ヘ 会計監査人は、会計に関する取締役の職務執行に関して、企業会計審議会で定める監査基準に基づき、監査を行う。
  - ト 監査部は、内部監査規程に従い、業務、会計、情報システム等にかかわる諸状況について独立的な立場で監査を行う。
  - チ 取締役会が決定した基本方針に基づき、経営会議は、内部統制システムを整備する。内部統制を効果的に推進するために統制機能を統括する内部統制推進グループを設置し、コンプライアンスの徹底を図る。併せて、組織横断的・第三者的視点によるその補完機能として、内部統制推進会議を設置する。
  - リ コンプライアンスに関して、従業員等からの「相談・通報窓口」を設置し、未然防止と早期解決の実効性を確保する。
- b 取締役の職務の執行にかかわる情報の保存および管理に関する体制
  - 取締役の職務の執行にかかわる情報については、取締役会規則、稟議規程等に従って議事録、稟議書その他定められた文書を作成し、また、文書管理規程等に基づいて、定められた期間これを保存するなど適切に管理する。

- c 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- イ 内部統制規程に定めた内部統制推進体制において、当社およびグループ各社における事業目標達成の阻害要因を明らかにし、継続的に改善を図る。
  - ロ 災害等のリスクへの措置については、保安規程、防災業務規程等に従い所定の体制およびBCP(事業継続計画)を整備し、迅速かつ適切な対応を図る。
  - ハ 業務遂行に伴うリスクのうち、コンプライアンスに関するものは倫理管理規程等に従い、情報セキュリティに関するものは情報管理規程等に従うことで、迅速かつ適切な対応を図る。
  - ニ その他の損失リスクについては、必要に応じてリスクヘッジに関するマニュアル等を整備し、当該リスクの軽減等に取り組む。
- d 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- イ 取締役会の意思決定・監督機能の充実を図るとともに、執行役員制度を導入し、業務執行機能を強化する。
  - ロ 取締役および執行役員の職務を効率的に行うために、職制、業務分掌・職責権限規程等の社内規程を整備する。
- e 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ グループ会社に関する重要な事項は、当社の取締役会において決議する。
  - ロ グループ全体の健全な発展を図るため、当社と重要な子会社で構成するグループ経営会議を定期的に開催する。
  - ハ 当社の経営企画部が、統括管理部門として、関係会社管理規程に則り、関係会社の管理と指導を行う。また、当社の監査部が内部監査規程、関係会社管理規程に則り、関係会社の内部監査を行う。
  - ニ 当社の監査役、会計監査人は、法令の定めに基づき、定期的に重要な子会社の調査を行う。
  - ホ グループ全体に適用される内部統制規程を定め、グループ一体として統制を図る。グループ内部統制連絡会議等を設置し、グループ各社への徹底を図る。
  - ヘ グループ会社が営業成績・財務・経理・人事その他の経営上の重要事項を報告する手順を、関係会社管理規程に定める。また、リスクが発現した場合の情報伝達方法を北ガスグループ内部統制規程に定める。
  - ト グループ全体のリスクマネジメントシステムを構築し、それに則りグループ各社がリスク管理を実施することを北ガスグループ内部統制規程に定める。
  - チ 中長期経営戦略の策定とそれにもとづく主要経営目標の設定を行い、進捗についてはグループ経営会議等で定期的な実績管理を行うことにより、効率的かつ効果的な職務執行を確保する。
  - リ グループ全体に適用される北ガスグループ倫理方針を定めるとともに、「北ガスグループ倫理相談・通報窓口」を設置する。
- f 監査役職務を補助すべき従業員に関する事項、当該従業員の取締役からの独立性に関する事項、当該従業員に対する指示の実効性の確保に関する事項
- イ 監査役職務執行および監査役会を補助すべき従業員として、専従スタッフを選任する。
  - ロ 専従スタッフは、監査役の指揮命令に従うことを業務分掌・職責権限規程に定めるとともに、監査役からの指揮命令に従って職務を遂行する。
  - ハ 専従スタッフの人事管理に関する事項については、監査役の同意を得る。
- g 取締役および従業員が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制、報告した者が当該報告をしたことを理由として不利益な取り扱いを受けないことを確保するための体制
- イ 監査役は、職務執行に必要な事項に関して、随時、取締役および従業員に対して報告を求めることができる。
  - ロ 監査役は、取締役会等の重要な会議に出席し、重要な決定や報告の把握ができ、また、各議事録、稟議書等の重要な書類を閲覧できる。
  - ハ 取締役は、職務執行に関し重大な法令・定款違反および不正行為の事実、または会社に著しい損害を及ぼす事実を知ったときは、これを直ちに監査役会に報告する。
  - ニ グループ会社の監査役、当社の経理部長および関係会社管理を担当する経営企画部長は、四半期ごとにグループ会社の状況について、監査役に報告する。

- ホ 当社の監査部は、グループ会社のリスク、コンプライアンスおよび内部通報情報等について、必要に応じ監査役に報告する。
- ヘ 監査役へ報告を行った者が当該報告をしたことを理由として不利益な取り扱いを受けない旨を北ガスグループ内部統制規程に定める。
- h 監査役 of 職務の執行について生じる費用の前払または償還の手続その他当職務の執行について生じる費用または償還の処理に係る方針に関する事項
  - 監査役 of 職務の執行について生じる費用等について、毎年、適切な予算を設ける。
- i その他監査役 of 監査が実効的に行われることを確保するための体制
  - 監査役は、職務執行に必要な事項に関して、随時、取締役および従業員に対して報告を求めることができる。取締役会は、監査役が会計監査人、グループ会社の監査役および内部監査部門等と連携し、監査役 of 監査が実効的に行われることを確保する。

当社のリスク管理については、経営会議で、全社リスク管理に係る仕組みを整備しており、推進事務局は内部統制推進グループが担当しております。また、当社は、コンプライアンスの推進に向けて、倫理方針・倫理行動指針を遵守し、誠実かつ公正な事業運営に努めております。コンプライアンス of 全社的な推進・管理については、内部統制推進グループが担務しております。なお、内部統制推進グループは、人員2名からなる専門の組織となっております。

当社グループにおける業務適正の確保については、重要な事項について当社取締役会において決議するとともに、当社関係部署が関係会社管理規程に則り、関係会社の業務管理並びにコンプライアンスに関する指導を行っております。

#### 責任限定契約 of 内容 of 概要

当社は、社外取締役全員及び社外監査役全員と会社法第427条第1項に規定する責任限定契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令に定める最低責任限度額または、1,000万円のいずれか高い額となります。

#### 株主総会 of 特別決議要件

当社は、株主総会 of 円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主 of 議決権 of 3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権 of 3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

#### 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

当社は、2008年6月に開催した第162回定時株主総会 of 決議により、継続的かつ安定的に配当を行うことを基本としながら、中間配当 of 実施や期末配当金 of 早期支払い等 of 機動的な配当政策及び資本政策 of 実行を可能とするため、剰余金 of 配当等、会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段 of 定めがある場合を除き、株主総会 of 決議によらず取締役会 of 決議によって定める旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性11名 女性1名 (役員のうち女性の比率8.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期(年)	所有株式数(株)
代表取締役社長 社長執行役員	大 槻 博	1949年7月11日生	1972年10月 当社入社 1997年6月 エネルギー営業部長 1998年6月 取締役 エネルギー営業部長 2000年6月 常務取締役 営業副本部長 エネルギー営業部長 2002年6月 代表取締役副社長 生産供給本部長 兼天然ガス転換本部長 2004年7月 代表取締役副社長 天然ガス転換事業部長 2006年6月 代表取締役 副社長執行役員 輸送ネットワーク事業部長、 天然ガス転換事業部長 2007年4月 代表取締役 副社長執行役員 営業本部長、天然ガス転換共同化推 進部担当 2008年4月 代表取締役社長 社長執行役員 営業本部長 2014年4月 代表取締役社長 社長執行役員 営業本部長、技術開発研究所担当 2015年4月 代表取締役社長 社長執行役員 営業本部長、技術開発研究所担当、 スマートエネルギーシステム& ネットワーク推進本部長 2015年10月 代表取締役社長 社長執行役員 エネルギーサービス事業本部長 2018年4月 代表取締役社長 社長執行役員(現)	(注3)	39,120
取締役 常務執行役員 技術&情報基盤整備本部長 人材開発センター・監査 部・リスク管理担当 ICT推進部長	土 谷 浩 昭	1960年7月25日生	1984年4月 当社入社 2006年6月 人事担当部長 2007年4月 経営企画担当部長 兼料金企画担当部長 2010年4月 企画部長 2011年4月 執行役員 営業副本部長 お客さま部長兼営業企画部長 2011年7月 執行役員 営業副本部長兼営業企画部長 2014年4月 常務執行役員 ICT推進部・総務人事 部・人材開発センター・内部統制推 進室・リスク管理担当 2014年6月 取締役 常務執行役員 ICT推進部・総務人事部・人材開発セ ンター・内部統制推進室・リスク管 理担当 2015年10月 取締役 常務執行役員 技術&情報基盤整備本部長 総務人事部・人材開発センター担当 2017年4月 取締役 常務執行役員 技術&情報基盤整備本部長 人材開発センター・監査部・リスク 管理担当 2020年4月 取締役 常務執行役員 技術&情報基盤整備本部長 人材開発センター・監査部・リスク 管理担当 ICT推進部長(現)	(注3)	7,800



役職名	氏名	生年月日	略歴		任期 (年)	所有株式数 (株)
取締役 常務執行役員 総務人事部担当 総務人事部長	末 長 守 人	1961年11月27日生	1985年4月 2007年2月 2009年6月 2010年4月 2012年4月 2012年7月 2017年4月 2017年6月 2018年6月	当社入社 広報・総務・秘書担当部長 総務担当部長・広報担当部長・秘書 担当部長 総務部長 執行役員 総務部長兼人事部長 執行役員 総務人事部長 常務執行役員 総務人事部担当 総務人事部長 取締役 常務執行役員 総務人事部担当 総務人事部長(現) 北ガスサービス株式会社 代表取締役社長(現)	(注3)	5,200
取締役 常務執行役員 経営企画本部長 経営企画部長	井 澤 文 俊	1964年12月19日生	1988年4月 2013年4月 2014年3月 2015年4月 2015年10月 2017年4月 2017年6月 2019年6月	当社入社 営業副本部長付 北ガスフレアスト南株式会社出向 北ガスフレアスト南株式会社 代表取締役専務 営業副本部長付 北ガスフレアスト南株式会社出向 北ガスフレアスト南株式会社 代表取締役社長 執行役員 企画部長 執行役員 経営企画部長 常務執行役員 経営企画本部長 経営企画部長 取締役 常務執行役員 経営企画本部長 経営企画部長(現) 北海道LNG株式会社 代表取締役社長(現)	(注3)	7,400
取締役 常務執行役員 生産供給本部長 生産事業部長 次世代プラットフォーム 検討プロジェクト担当	前 谷 浩 樹	1967年8月12日生	1991年4月 2009年4月 2014年4月 2015年4月 2017年4月 2018年4月 2019年4月 2019年6月 2020年4月	当社入社 原料企画室長 エネルギービジョンプロジェクト部 長 執行役員 スマートエネルギーシステム&ネッ トワーク推進副本部長兼エネルギー ビジョンプロジェクト部長 執行役員 エネルギーサービス事業本部副本 部長兼スマートエネルギー&ネッ トワーク推進事業部長 執行役員 エネルギーサービス事業本部長 常務執行役員 エネルギーサービス事業本部長 取締役 常務執行役員 エネルギーサービス事業本部長 取締役 常務執行役員 生産供給本部長 生産事業部長 次世代プラットフォーム検討プロ ジェクト担当(現)	(注3)	3,600

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期 (年)	所有株式数 (株)
取締役 常務執行役員 エネルギーサービス事業本 部長	金 沢 明 法	1964年8月8日生	1988年4月 2008年7月 2012年4月 2014年4月 2015年4月  2015年10月 2017年10月  2018年7月  2020年4月 2020年6月	当社入社 監査室長 千歳支店長 執行役員 営業企画部長 執行役員 営業副本部長 営業企画部長 執行役員 エネルギー企画部長 執行役員 フレアスト新会社担当 北ガスフレアスト株式会社代表取締 役社長 執行役員 フレアスト事業担当 北ガスフレアスト株式会社代表取締 役社長 常務執行役員 エネルギーサービス事業本部長 取締役 常務執行役員 エネルギーサービス事業本部長(現)	(注3)	4,700
取締役	中 上 英 俊	1945年3月11日生	1973年4月 1976年1月  2010年6月 2013年4月	住環境計画研究所所長 株式会社住環境計画研究所 代表取締役所長 当社取締役(現) 株式会社住環境計画研究所 代表取締役会長(現)	(注3)	4,100
取締役	岡 田 美 弥 子	1964年7月31日生	2000年4月 2001年4月  2003年4月  2007年4月  2018年10月 2019年6月	関西学院大学 商学部 非常勤講師 北海道大学大学院経済学研究科 専任講師 北海道大学大学院経済学研究科 助教授 北海道大学大学院経済学研究科 准教授 北海道大学大学院経済学研究科 教授(現) 当社取締役(現)	(注3)	200
常勤監査役	堤 信 之	1959年1月6日生	1998年4月 2007年4月 2010年4月 2012年4月  2012年6月  2017年4月 2017年6月	当社入社 経理財務担当部長 執行役員 経理財務担当部長 常務執行役員 経理部担当、経理部長 取締役 常務執行役員 経理部担当、経理部長 取締役 当社監査役(現)	(注4)	11,300
常勤監査役	鈴 木 貴 博	1959年12月19日生	1982年4月 1999年10月 2006年4月 2007年4月 2008年10月  2009年6月  2010年4月 2012年6月 2013年6月  2015年6月	北海道東北開発公庫入庫 日本政策投資銀行総務部課長 法務部長 法務・コンプライアンス部長 株式会社日本政策投資銀行 法務・コンプライアンス部長 中堅・成長企業ファイナンスグルー プ長 東北支店長 常務執行役員 リスク統括部、法 務・コンプライアンス部担当 常務執行役員 リスク統括部、法 務・コンプライアンス部、管理部担 当 退職 当社監査役(現)	(注4)	1,800

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期 (年)	所有株式数 (株)
監査役	小山 俊 幸	1957年 5月21日生	1981年 4月	日本国有鉄道入社	(注4)	-
			1987年 4月	北海道旅客鉄道株式会社入社		
			1999年 3月	鉄道事業本部企画部長		
			2000年 6月	総合企画本部担当部長		
			2002年 6月	総務部長		
			2007年 6月	総合企画本部経営企画部長		
			2009年 6月	取締役 総合企画本部経営企画部長		
			2012年 5月	取締役 総合企画本部長		
			2012年 6月	常務取締役 総合企画本部長		
			2013年 6月	当社監査役(現)		
			2014年 2月	北海道旅客鉄道株式会社 常務取締役 鉄道事業本部長		
			2014年 4月	常務取締役 総合企画本部長		
			2015年 6月	常務取締役 総合企画本部長 兼 新幹線推進本部長 東京事務所・財 務部・資金運用室・J R札幌病院 担当		
			2016年 3月	常務取締役 総合企画本部長 東京事務所・財務部・資金運用室・ JR札幌病院担当		
			2017年 6月	専務取締役 総合企画本部長 東京事務所・財務部・資金運用室・ JR札幌病院担当		
			2018年 6月	取締役副社長 地域交通改革・新幹線札幌開業準 備・開発事業担当		
			2020年 6月	北海道キヨスク株式会社 代表取締役社長(現)		
監査役	井上 唯 文	1955年 3月21日生	1978年 4月	札幌市採用	(注4)	-
			2003年 4月	清田区市民部長		
			2005年 4月	財政局財政部長		
			2007年 4月	総務局秘書部長		
			2008年 4月	経済局長		
			2011年 4月	総務局長		
			2012年 4月	市長政策室長		
			2013年 4月	副市長		
			2015年 5月	退職		
			2015年 6月	当社監査役(現)		
計						85,220

- (注) 1 取締役中上英俊、岡田美弥子は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
2 監査役鈴木貴博、小山俊幸および井上唯文は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
3 取締役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時  
までであります。  
4 監査役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時  
までであります。  
5 当社は、会社の意思決定と業務執行を分離し、意思決定・監督機関としての取締役会の機能を強化すると  
ともに、執行役員への大幅な権限委譲により業務執行機能を向上させるため執行役員制度を導入してありま  
す。

執行役員(取締役兼務者を除く)は以下のとおりであります。

執行役員	大関 伸二	供給事業部長 供給保安部長
執行役員	八木 涉	北ガスジープレックス株式会社 代表取締役社長
執行役員	山岸 泰	設備技術サービス事業部長 設備技術サービス部長
執行役員	栗田 哲也	エネルギーシステム部長
執行役員	後藤隆一郎	フレアスト事業担当 北ガスフレアスト株式会社 代表取締役社長
執行役員	山崎 秀樹	監査部長
執行役員	高橋 憲司	函館支店長
執行役員	今城 忠宣	第一営業部長
執行役員	梅村 卓司	北ガスジェネックス株式会社 代表取締役社長
執行役員	近藤 清隆	株式会社北海道熱供給公社 代表取締役社長 株式会社エナジーソリューション 代表取締役社長

## 社外役員の状況

社外取締役の役割・機能につきましては、当該人物の経験・見識等を、中立・公正な立場で当社の経営に反映していただくとともに、経営に対する監督機能を担い、コーポレート・ガバナンスを強化することであると考えております。社外取締役は2名選任しておりますが、各社外取締役は、取締役会に出席し、中立・公正な視点から適宜発言を行い、取締役会の監督機能の強化に努めております。社外取締役を選任するための独立性に関する基準または方針は定めておりませんが、各人の経験・見識・出身等を総合的に勘案したうえで、社外取締役として客観的かつ専門的な立場で職務を適切に遂行できることを要件として選任しております。

なお、各社外取締役と当社との間には、特別の利害関係はありません。

社外監査役の役割・機能につきましては、当該人物の経験・見識等を、中立・公正な立場で当社の監査に反映していただくとともに、監査機能の充実を図り、コーポレート・ガバナンスを強化することであるとと考えております。社外監査役は、取締役会および監査役会に出席し、中立・公正な視点から適宜発言を行い、監査機能の充実に努めております。社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針は定めておりませんが、各人の経験・見識・出身等を総合的に勘案したうえで、社外監査役として客観的かつ中立の立場で監査を実施できることを要件として選任しております。

なお、各社外監査役と当社の間には、特別の利害関係はありません。

## 社外取締役または社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査および会計監査との相互連携ならびに内部統制部門との関係

監査役の監査が実効的に行われるための体制整備として、会計監査人・関係会社監査役・内部監査部門等との連携体制を強化しております。監査役会、監査部、会計監査人は、年間監査計画や監査報告等の定期的な会合を含め、必要に応じて随時情報交換を行うことで、相互の連携を高めております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

a)組織・人員及び監査役会の開催状況

監査役会は、監査役4名、うち社外監査役3名(1名は常勤監査役)で構成されております。また、監査役専従の従業員を1名配置した、執行部門から独立した「監査役室」を設置し、監査業務を補助しております。常勤監査役堤信之は、担当取締役等の立場で長く当社の経理・財務業務を担当してまいり、また、社外常勤監査役鈴木貴博は、金融機関にて法務・コンプライアンス部長、支店長、常務執行役員等を歴任しており、各々、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査役会は毎月1回の定例開催のほか臨時1回、計年間13回開催しており、当該事業年度において各監査役はすべてに出席しております。

b)監査役及び監査役会の活動状況

監査役は、「監査役監査基準」に則り、取締役会・経営会議への出席、取締役等からの業務執行状況に関する聴取、重要な決裁書類の閲覧、社内全部門及び子会社・関連会社への往査等を行うほか、会計監査人、内部監査部門との間で定期的に会合を設け、情報の共有・意見交換を行い相互に連携を図りながら監査を行っております。

監査役会では、期初に監査方針、監査計画及び職務分担の検討・決定を行い、毎月定例で報告される稟議決裁状況、業務監査状況に関する報告・意見交換等をもとに、取締役の職務の執行状況、内部統制システムの整備・運用状況、会計監査人の監査の方法及び結果の相当性等について検討しております。

< 監査活動の概要 >

取締役の職務の執行状況

- ・重要な会議への出席：取締役会（常勤・非常勤）、経営会議（常勤）
- ・取締役・執行役員・部門長等面談による報告聴取・意見交換（常勤）
- ・代表取締役及び社外取締役との会合（常勤・非常勤）
- ・稟議書、重要な会議の議事録、重要な契約書類等の閲覧（常勤・非常勤）
- ・社内各部門及び子会社等の実地調査（常勤・非常勤）
- ・株主総会に提出される案件及び書類等の監査（常勤・非常勤）
- ・子会社等監査役との意思疎通・情報交換（常勤）

内部統制システムの整備・運用状況

- ・内部統制システムの整備状況、全社リスク管理体制の推進状況及び内部統制報告制度の評価、内部統制監査に関する経過報告書の受領・説明聴取（常勤）
- ・内部監査部門等からの報告聴取・情報交換（常勤）

会計監査人の監査の方法及び結果の相当性

- ・月次・四半期決算書類等及び計算書類・事業報告等の監査（常勤）
- ・会計監査人の職務の執行状況等について報告聴取・意見交換（常勤）

内部監査の状況

内部監査組織として人員3名からなる内部監査グループを設け、関係会社を含め業務活動が適正かつ効率的に行われ、内部統制が達成されているかについて、定期的に内部監査を行っております。監査の結果については、社長に報告するとともに、監査対象部門長等にも報告し、さらに改善提言を継続的に実施しております。

内部監査グループは監査役に対し、これらの監査結果のほか、内部監査計画について報告を行うとともに、必要に応じ、情報の共有・意見交換により相互に連携を図っております。

また、会計監査人に対し、金融商品取引法における財務報告に係る内部統制報告制度に基づく監査内容に関して情報交換を実施するとともに、監査結果について定期的に報告を行っております。

なお、内部統制部門である内部統制推進グループと内部監査グループは監査部に属しており、各々の活動状況について、随時情報交換を行っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

仰星監査法人

b. 継続監査期間

56年間

上記継続監査期間は、当社において調査可能な範囲での期間であり、実際の継続監査期間は上記期間を超えている可能性があります。

c. 業務を執行した公認会計士

川崎 浩 氏（継続監査年数3年）

野口 哲生 氏（継続監査年数6年）

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名、その他4名(公認会計士試験合格者、システム監査技術者)であります。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価および選定方針と理由

当社の監査役会は、会計監査人の監査の品質、監査の有効性・効率性を総合的に勘案して、適正な会計監査が期待できることを会計監査人の選考基準としており、監査役会にて評価・審議の結果、相応であると判断し選定しております。なお、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合のほか、前記の選考基準に照らし、監査役会にて審議のうえ、適正な会計監査が期待できないと判断される場合には、会計監査人の解任または不再任に関する議案を株主総会に上程する方針です。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	28	1	28	6
連結子会社	7		7	
計	35	1	35	6

当社における非監査業務の内容は、ガス事業託送収支計算規則に基づく証明書発行業務および社債発行に伴うコンフォート・レター作成業務、収益認識会計基準変更に対するコンサルティング業務であります。また、連結子会社における非監査業務に該当はありません。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(aを除く)

該当する事項はありません。

c. その他重要な報酬の内容

該当する事項はありません。

d . 監査報酬の決定方針と理由

監査報酬は、規模・特性・監査日数等を勘案した上で決定しております。

e . 監査役による監査報酬の同意理由

当社の監査役会は、取締役、社内関係部門および会計監査人からの必要な資料の入手や報告聴取を通じて、監査計画の内容や従前からの職務執行状況の妥当性・適切性を確認し、報酬見積りの算出根拠などを精査・検討した結果、会計監査人の報酬等について同意しております。

(4) 【役員の報酬等】

役員報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針を以下のように定めております。

- ・役員の報酬限度額につきましては、2006年6月29日開催の第160回定時株主総会において、取締役は年額3億円以内、監査役は年額1億円以内と決議しております。
- ・各取締役及び監査役の報酬額は、取締役にしましては、取締役会の決議による委任に基づき代表取締役社長が、経営環境等を総合的に勘案し決定しており、その裁量の範囲は、取締役会への上程、個別の報酬額の決定であります。なお、当事業年度においては、2019年6月25日開催の取締役会において審議しております。監査役につきましては監査役の協議により決定しております。なお、取締役の報酬につきましては、社外取締役を除き、基本報酬とストックオプションとし、報酬等の額の範囲内で決定しております。

a 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	
取締役(社外取締役を除く)	137	133	4	7
監査役(社外監査役を除く)	18	18		1
社外役員	50	50		6

- (注) 1 取締役の使用人兼務部分に対する報酬は支給しておりません。  
 2 2006年6月29日開催の第160期定時株主総会終結の時をもって取締役及び監査役の役員退職慰労金制度を廃止しております。

b 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が「ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持強化」または「地域経済・社会の活性化」である投資株式を純投資目的以外の目的である投資株式としており、それ以外の投資株式を純投資目的である投資株式として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社が保有している上場株式は「ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持強化」と「地域経済・社会の活性化」を保有目的としており、検証の結果、これらの保有目的が達成されないと判断したときは、縮減を進めます。

保有の是非については、通常は代表取締役から委任された執行役員が検証しており、保有目的等を勘案した検証結果について必要に応じ取締役会に報告してまいります。

また、同株式の議決権行使について、保有目的に合致する内容が否かなど、総合的に勘案し、都度行使の判断をしております。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	42	1,631
非上場株式以外の株式	13	3,085

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	99	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化、地域経済・社会の活性化を目的に保有するもの。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	3	87
非上場株式以外の株式	-	-



## c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

## 特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
K D D I(株)	704,400	704,400	地域経済・社会の活性化を目的に保有するもの。 1	無
	2,247	1,679		
エア・ウォーター(株)	165,258	165,258	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化、地域経済・社会の活性化を目的に保有するもの。 1	無
	245	265		
(株)北洋銀行	741,000	741,000	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化、地域経済・社会の活性化を目的に保有するもの。 1	有
	151	205		
飯野海運(株)	392,600	392,600	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	有
	121	146		
帝国繊維(株)	52,800	-	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化、地域経済・社会の活性化を目的に保有するもの。 1	有
	110	-		
石油資源開発(株)	40,000	40,000	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	有
	71	95		
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	58,900	58,900	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化、地域経済・社会の活性化を目的に保有するもの。 1	有 2
	57	67		
(株)みずほフィナンシャルグループ	347,812	347,812	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	有 2
	42	59		
東京瓦斯(株)	8,000	8,000	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	有
	20	23		
三井住友トラストホールディングス(株)	1,815	1,815	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	有 2
	5	7		
第一生命ホールディングス(株)	3,600	3,600	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	有 2
	4	5		
ジェイエフイーホールディングス(株)	5,823	5,823	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	無
	4	10		
りらいあコミュニケーションズ(株)	2,688	2,688	ガス・電気等の事業の発展のため協力関係の維持・強化を目的に保有するもの。 1	無
	2	2		

1 当社事業と関連はあるものの、保有による効果を定量的に算出することは困難ですが、保有の合理性については、代表取締役から委任された執行役員が保有目的等を勘案し検証しております。

2 当該株式発行者の子会社による保有がございます。

## みなし保有株式

該当する事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

保有の目的等を勘案した検証結果について2019年9月30日開催の取締役会において報告し、当事業年度において保有目的に合致しない上場株式1銘柄を売却しております。

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (百万円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	5	2	20

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(百万円)	売却損益の 合計額(百万円)	評価損益の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	0	12	2

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)及び「ガス事業会計規則」(1954年通商産業省令第15号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号)及び「ガス事業会計規則」(1954年通商産業省令第15号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、仰星監査法人、各種団体等の行う研修に参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
製造設備	24,720,333	23,150,549
供給設備	39,162,765	39,358,693
業務設備	8,876,610	12,216,640
その他の設備	3 29,570,754	3 34,691,555
建設仮勘定	10,853,807	3,036,181
<b>有形固定資産合計</b>	1, 2 113,184,272	1, 2 112,453,619
<b>無形固定資産</b>		
その他	2,763,383	2,559,058
<b>無形固定資産合計</b>	2,763,383	2,559,058
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	4 5,001,497	4 5,501,451
退職給付に係る資産	1,100,923	1,003,973
繰延税金資産	1,923,398	1,905,599
その他	3,538,695	3,564,470
貸倒引当金	15,727	23,340
<b>投資その他の資産合計</b>	11,548,787	11,952,155
<b>固定資産合計</b>	127,496,443	126,964,833
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,697,992	1,537,027
受取手形及び売掛金	6 13,477,296	12,920,032
商品及び製品	270,733	290,553
原材料及び貯蔵品	3,313,509	5,310,552
その他	3,369,264	3,375,384
貸倒引当金	58,382	53,199
<b>流動資産合計</b>	22,070,414	23,380,350
<b>資産合計</b>	149,566,858	150,345,184

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
固定負債		
社債	32,000,000	44,000,000
長期借入金	3 26,239,271	3 27,910,146
再評価に係る繰延税金負債	1 725,719	1 554,429
退職給付に係る負債	4,393,882	4,369,358
ガスホルダー修繕引当金	198,650	112,822
保安対策引当金	624,225	673,245
器具保証引当金	-	355,151
熱供給事業設備修繕引当金	450,988	213,984
リース債務	1,640,217	1,430,976
その他	516,751	574,300
固定負債合計	66,789,706	80,194,413
流動負債		
1年以内に期限到来の固定負債	3 10,932,114	3 4,443,853
支払手形及び買掛金	3,060,946	2,835,428
コマーシャル・ペーパー	8,200,000	1,000,000
その他	13,673,808	11,459,624
流動負債合計	35,866,869	19,738,906
負債合計	102,656,575	99,933,320
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,515,830	7,515,830
資本剰余金	5,256,569	5,256,582
利益剰余金	30,419,602	33,980,192
自己株式	171,865	173,136
株主資本合計	43,020,137	46,579,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,452,921	1,727,922
土地再評価差額金	1 672,182	1 229,749
退職給付に係る調整累計額	197,710	158,779
その他の包括利益累計額合計	1,927,392	1,798,892
新株予約権	29,428	38,147
非支配株主持分	1,933,324	1,995,353
純資産合計	46,910,282	50,411,863
負債純資産合計	149,566,858	150,345,184

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	121,174,440	126,375,477
売上原価	<sup>1</sup> 88,264,930	<sup>1</sup> 92,241,753
売上総利益	32,909,510	34,133,724
供給販売費及び一般管理費		
供給販売費	24,865,160	25,630,243
一般管理費	3,983,743	3,897,203
供給販売費及び一般管理費合計	<sup>2, 4</sup> 28,848,903	<sup>2, 4</sup> 29,527,447
営業利益	4,060,607	4,606,277
営業外収益		
受取利息	13,481	18,638
受取配当金	182,397	227,639
修繕引当金戻入益	30,765	316,518
持分法による投資利益	178,810	68,763
受取賃貸料	189,183	250,641
その他	321,394	471,251
営業外収益合計	916,032	1,353,454
営業外費用		
支払利息	384,618	344,872
支払補償費	-	87,738
出向社員費用	143,373	163,056
その他	225,810	169,347
営業外費用合計	753,802	765,014
経常利益	4,222,837	5,194,716
特別利益		
固定資産売却益	<sup>5</sup> 657,520	-
特別利益合計	657,520	-
税金等調整前当期純利益	4,880,358	5,194,716
法人税、住民税及び事業税	<sup>3</sup> 1,764,983	<sup>3</sup> 1,457,408
法人税等調整額	437,996	279,304
法人税等合計	1,326,987	1,178,104
当期純利益	3,553,370	4,016,612
非支配株主に帰属する当期純利益	49,751	62,029
親会社株主に帰属する当期純利益	3,503,619	3,954,582

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	3,553,370	4,016,612
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	343,546	275,392
退職給付に係る調整額	200,003	38,931
持分法適用会社に対する持分相当額	760	391
その他の包括利益合計	1 542,789	1 313,933
包括利益	3,010,581	4,330,545
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,960,830	4,268,515
非支配株主に係る包括利益	49,751	62,029

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,515,830	5,256,569	27,665,673	168,494	40,269,579
当期変動額					
剰余金の配当			748,474		748,474
親会社株主に帰属する当期純利益			3,503,619		3,503,619
自己株式の取得				4,218	4,218
自己株式の処分		13		151	165
自己株式の消却		13	681	695	-
持分法の適用範囲の変動			533		533
土地再評価差額金の取崩					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	-	2,753,929	3,371	2,750,558
当期末残高	7,515,830	5,256,569	30,419,602	171,865	43,020,137

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	1,795,707	672,182	2,292	2,470,182	20,813	1,883,573	44,644,148
当期変動額							
剰余金の配当							748,474
親会社株主に帰属する当期純利益							3,503,619
自己株式の取得							4,218
自己株式の処分							165
自己株式の消却							-
持分法の適用範囲の変動							533
土地再評価差額金の取崩							-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	342,785	-	200,003	542,789	8,614	49,751	484,423
当期変動額合計	342,785	-	200,003	542,789	8,614	49,751	2,266,134
当期末残高	1,452,921	672,182	197,710	1,927,392	29,428	1,933,324	46,910,282



当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,515,830	5,256,569	30,419,602	171,865	43,020,137
当期変動額					
剰余金の配当			836,426		836,426
親会社株主に帰属する当期純利益			3,954,582		3,954,582
自己株式の取得				1,332	1,332
自己株式の処分		12		61	73
自己株式の消却					-
持分法の適用範囲の変動					-
土地再評価差額金の取崩			442,433		442,433
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	12	3,560,589	1,271	3,559,330
当期末残高	7,515,830	5,256,582	33,980,192	173,136	46,579,468

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	1,452,921	672,182	197,710	1,927,392	29,428	1,933,324	46,910,282
当期変動額							
剰余金の配当							836,426
親会社株主に帰属する当期純利益							3,954,582
自己株式の取得							1,332
自己株式の処分							73
自己株式の消却							-
持分法の適用範囲の変動							-
土地再評価差額金の取崩							442,433
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	275,001	442,433	38,931	128,499	8,719	62,029	57,750
当期変動額合計	275,001	442,433	38,931	128,499	8,719	62,029	3,501,580
当期末残高	1,727,922	229,749	158,779	1,798,892	38,147	1,995,353	50,411,863

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	4,880,358	5,194,716
減価償却費	12,026,811	13,058,788
有形固定資産売却損益(は益)	669,062	7,849
保安対策引当金の増減額(は減少)	390,054	49,020
器具保証引当金の増減額(は減少)	-	355,151
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	65,306	126,457
貸倒引当金の増減額(は減少)	143,802	2,431
受取利息及び受取配当金	195,878	246,278
支払利息	384,618	344,872
社債償還損	60,958	-
売上債権の増減額(は増加)	1,573,272	597,612
たな卸資産の増減額(は増加)	2,869,180	1,962,950
仕入債務の増減額(は減少)	5,036,646	527,991
未払消費税等の増減額(は減少)	447,118	730,570
その他	1,273,557	258,340
小計	13,885,064	17,456,208
利息及び配当金の受取額	195,878	248,723
利息の支払額	373,729	336,341
法人税等の支払額	1,371,789	1,975,733
法人税等の還付額	27,193	12,946
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,362,618	15,405,803
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	17,300,703	15,433,787
有形固定資産の売却による収入	4,828,504	1,614,126
無形固定資産の取得による支出	942,731	769,191
資産除去債務の履行による支出	-	275,610
長期前払費用の取得による支出	360,004	583,426
長期前払費用の売却による収入	975,643	-
関係会社株式の取得による支出	252,727	1,580
関係会社貸付けによる支出	2,900,000	-
その他	111,884	235,749
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,840,133	15,213,721
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	321,001	795,015
コマーシャル・ペーパーの純増減額(は減少)	1,700,000	7,200,000
長期借入れによる収入	6,800,000	6,050,000
長期借入金の返済による支出	9,270,769	7,860,718
社債の発行による収入	13,427,558	11,937,508
社債の償還による支出	10,060,958	3,000,000
配当金の支払額	750,319	839,307
その他	282,488	235,546
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,884,023	353,048
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,593,491	160,965
現金及び現金同等物の期首残高	3,291,483	1,697,992
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,697,992	1 1,537,027

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 7社

連結子会社の名称

北ガスジェネックス(株)、北ガスサ - ビス(株)、北ガスジーブレックス(株)、(株)エネルギーソリューション、(株)北海道熱供給公社、北海道LNG(株)、北ガスフレアスト(株)

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

北ガスフレアスト北見(株)

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)、及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社又は関連会社の数及び主要な会社等の名称

持分法を適用した非連結子会社の数 なし

持分法を適用した関連会社の数 9社

会社等の名称

(株)エネルギーサプライ、(株)サッポロエネルギーサービス、北ガスフレアスト北(株)、北ガスフレアスト函館北(株)、北ガスフレアスト函館南(株)、苫小牧バイオマス発電(株)、釧路エルエヌジー(株)、石狩LNG棧橋(株)、室蘭ガス(株)

(2) 持分法を適用しない非連結子会社の名称等

持分法を適用しない非連結子会社

会社等の名称

北ガスフレアスト北見(株)

持分法を適用しない理由

持分法を適用しない非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)、及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、北ガスフレアスト(株)の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたりましては、北ガスフレアスト(株)につきましては12月31日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引につきましては、連結上必要な調整を行っております。

#### 4 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### 有価証券

###### その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法

###### デリバティブ

###### 時価法

###### たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。但し、当社の千歳支店、石狩LNG基地並びに供給設備のうち天然ガス用設備、46エネルギーセンターにおける熱供給事業用設備及び一部の連結子会社は、定額法によっております。

また、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります

建物及び構築物	3～50年
導管	13～22年
機械装置及び工具器具備品	2～20年

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産のうち、一括償却を選択した資産については、3年間で均等償却をしております。

###### 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

###### リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

長期前払費用

均等償却をしております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率法により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

###### ガスホルダー修繕引当金

球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見積額を次回修繕までの期間に配分して計上しております。

###### 保安対策引当金

ガス事業の保安の確保に要する費用の支出に備えるため、お客さまがガスをご使用にならない経年管等の対策に要する費用の見積額を計上しております。

#### 器具保証引当金

販売器具の保証期間内サービスに要する費用の支出に備えるため、翌事業年度以降の費用発生の見積額を計上しております。

#### 熱供給事業設備修繕引当金

熱供給事業設備の定期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見積額を次回修繕までの期間に配分して計上しております。

#### (4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務費用については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（1年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として15年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理することとしております。

当社の一部の退職給付制度及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### (5) 重要な収益の計上基準

##### 完成工事高の計上基準

請負工事に係る収益計上は当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

#### (6) 重要なヘッジ会計の方法

##### ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、適用要件を満たしている場合は、金利スワップ特例処理、為替予約の振当処理を採用しております。

##### ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
金利スワップ	借入金
為替予約	外貨建金銭債権債務

##### ヘッジ方針

内規に基づき、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジしております。

なお、実需に関係のないデリバティブ取引は行っておりません。

##### ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジの有効性評価は、ヘッジ手段とヘッジ対象の対応関係を確認することにより行っております。但し、特例処理の要件を満たしている金利スワップ及び振当処理の要件を満たしている為替予約については、有効性の評価を省略しております。

#### (7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

#### (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなります。



## (表示方法の変更)

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「修繕引当金戻入益」は、当連結会計年度において重要性が高まったため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。

これらの表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた352,159千円は「修繕引当金戻入益」30,765千円、「その他」321,394千円として組み替えております。

## (会計上の見積りの変更)

## (資産除去債務の見積りの変更)

当連結会計年度において、不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、原状回復費用の新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。当該見積りの変更により、当連結会計年度の営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益が108,303千円増加しております。

## (連結貸借対照表関係)

## 1 土地の再評価

当社グループは、土地再評価法(「土地の再評価に関する法律」1998年3月31日公布、法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

## ・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税の計算のために公表された方法により算定した価格に合理的な調整を行う方法及び第5号に定める不動産鑑定士の鑑定評価により算出

## ・再評価を行った年月日

2002年3月31日

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額	827,193千円	1,084,233千円

## 2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
	222,119,303千円	230,165,690千円

## 3 担保に供している資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
その他の設備(工場財団他)	2,781,056千円	2,606,951千円

## 担保付債務

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
長期借入金	763,973千円	528,466千円
(うち1年以内 期限到来の固定負債)	235,507千円	181,044千円

4 非連結子会社及び関連会社の株式等

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券(株式)	736,068千円	773,232千円

5 偶発債務

(1) 保証債務

石狩サービス(株)の清算により個人向リース機器契約のT & Dリース(株)に対する連帯保証を承継しており、その金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
	2,109千円	125千円

(2) 債務履行引受契約

社債の債務履行引受契約に係る偶発債務は次のとおりであります

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
第11回無担保社債	5,000,000千円	5,000,000千円
第13回無担保社債	5,000,000千円	5,000,000千円

6 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末が金融機関の休日であったため、次の満期手形が前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形	26,772千円	- 千円



(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	91,022千円	113,419千円

- 2 供給販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>供給販売費</b>		
給料	4,455,172千円	4,292,285千円
退職給付費用	370,090千円	394,262千円
ガスホルダー修繕引当金繰入額	23,300千円	15,848千円
保安対策引当金繰入額	455,365千円	498,675千円
貸倒引当金繰入額	- 千円	7,789千円
減価償却費	7,351,102千円	7,690,807千円
<b>一般管理費</b>		
退職給付費用	91,317千円	53,869千円

- 3 当社グループにおける事業税は供給販売費及び一般管理費に含めております。

- 4 供給販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	271,289千円	290,430千円

- 5 固定資産売却益

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物	3,296千円	- 千円
構築物他	613,162千円	- 千円
長期前払費用	41,061千円	- 千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額 (単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	453,573	416,903
組替調整額	-	12,360
税効果調整前	453,573	404,543
税効果額	110,027	129,150
その他有価証券評価差額金	343,546	275,392
土地再評価差額金		
税効果額	-	-
退職給付に係る調整額		
当期発生額	298,288	33,910
組替調整額	20,852	20,094
税効果調整前	277,436	54,004
税効果額	77,432	15,072
退職給付に係る調整額	200,003	38,931
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	760	391
その他包括利益合計	542,789	313,933

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	88,691,638	-	70,953,832	17,737,806

- (注) 1. 2018年6月26日開催の第172回定時株主総会決議に基づき、2018年10月1日付で当社普通株式5株を1株に併合いたしました。  
 2. 2018年10月31日の取締役会決議に基づき、2018年12月3日を消却日として自己株式の消却を実施いたしました。

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

株式併合による減少 70,953,311 株  
 自己株式消却による減少 521 株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	632,725	7,499	511,499	128,725

- (注) 1. 2018年10月1日付で当社普通株式5株を1株に併合いたしました。

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取請求による増加 7,499 株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

株式併合による減少 510,865 株  
 自己株式消却による減少 521 株  
 単元未満株式の売渡請求による減少 113 株

3 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社	第1回ストック・オプションとしての新株予約権					8,636	
	第2回ストック・オプションとしての新株予約権					9,028	
	第3回ストック・オプションとしての新株予約権					8,092	
	第4回ストック・オプションとしての新株予約権					3,670	
合計						29,428	

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年5月30日 取締役会	普通株式	352,235	4.0	2018年3月31日	2018年6月5日
2018年10月31日 取締役会	普通株式	396,238	4.5	2018年9月30日	2018年12月3日

(注) 1株当たり配当額は、基準日が2018年9月30日であるため、2018年10月1日付の株式併合前の金額を記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月30日 取締役会	普通株式	利益剰余金	396,204	22.5	2019年3月31日	2019年6月4日

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	17,737,806	-	-	17,737,806

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	128,725	835	46	129,514

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取請求による増加 835株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の売渡請求による減少 46株

3 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第1回ストック・オプションとしての新株予約権					8,636	
	第2回ストック・オプションとしての新株予約権					9,028	
	第3回ストック・オプションとしての新株予約権					8,796	
	第4回ストック・オプションとしての新株予約権					7,674	
	第5回ストック・オプションとしての新株予約権					4,012	
合計						38,147	

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年5月30日 取締役会	普通株式	396,204	22.5	2019年3月31日	2019年6月4日
2019年10月30日 取締役会	普通株式	440,221	25.0	2019年9月30日	2019年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年5月28日 取締役会	普通株式	利益剰余金	440,207	25.0	2020年3月31日	2020年6月3日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	1,697,992千円	1,537,027千円
現金及び現金同等物	1,697,992千円	1,537,027千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、都市ガス事業における業務設備(社屋)及びE S P事業における冷温熱供給設備であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

「4 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年以内	1,105,496千円	1,613,412千円
1年超	3,026,981千円	16,138,127千円
計	4,132,477千円	17,751,539千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、グループ全体の資金効率を高める目的で、キャッシュ・マネジメント・システムによるグループ金融を実施しております。グループ各社の営業性資金を当社に集中し、不足額の資金調達に関しては、主に当社の社債等の直接調達及び金融機関からの間接調達により行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信開始時の信用調査にてリスクの低減を図っております。

投資有価証券である株式は市場価格の変動リスクに晒されていますが、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

社債・借入金等の用途は主に設備投資に係る長期資金であります。変動金利の借入金は金利の変動リスクに晒されますが、当連結会計年度の末日において変動金利の借入金はありません。なお、変動金利の借入を行う場合には、当該リスクをヘッジすることを目的として、金利スワップ取引を実施することがあります。

外貨建営業債務は為替の変動リスクに晒されていますが、当該リスクをヘッジすることを目的として、為替予約取引を実施しております。なお、金利スワップ、為替予約等デリバティブ取引は、社内規定に従い、実需の範囲で行うこととしております。

また、営業債務や短期借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰り計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含まれておりません((注3)参照)。

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額(*2)	時価(*2)	差額
(1) 受取手形及び売掛金(*1)	13,418,913	13,418,913	-
(2) 投資有価証券			
其他有価証券	2,592,087	2,592,087	-
(3) コマーシャル・ペーパー	(8,200,000)	(8,200,000)	-
(4) 社債	(35,000,000)	(35,387,400)	(387,400)
(5) 長期借入金	(33,934,674)	(34,210,041)	(275,367)

(\*1) 貸倒引当金を控除して記載しております。

(\*2) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額(*2)	時価(*2)	差額
(1) 受取手形及び売掛金(*1)	12,866,832	12,866,832	-
(2) 投資有価証券			
其他有価証券	3,092,160	3,092,160	-
(3) コマーシャル・ペーパー	(1,000,000)	(1,000,000)	-
(4) 社債	(44,000,000)	(43,905,700)	( 94,300)
(5) 長期借入金	(32,123,956)	(32,149,742)	(25,786)

(\*1) 貸倒引当金を控除して記載しております。

(\*2) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(注1)金融商品の時価の算定並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。詳細は、「有価証券関係」注記をご参照下さい。

(3) コマーシャル・ペーパー

コマーシャル・ペーパーは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(4) 社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格に基づき算定しております。

(5) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照下さい。

(注2) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内
受取手形及び売掛金	13,418,913
合計	13,418,913

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内
受取手形及び売掛金	12,866,832
合計	12,866,832

(注3) 前連結会計年度において、非上場株式(連結貸借対照表計上額2,409,409千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(2) 投資有価証券 その他有価証券」に含めておりません。

当連結会計年度において、非上場株式(連結貸借対照表計上額2,409,291千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(2) 投資有価証券 その他有価証券」に含めておりません。

(注4) 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
コマーシャル ペーパー	8,200,000	-	-	-	-	-
社債	3,000,000	-	-	5,000,000	5,000,000	22,000,000
長期借入金	7,695,403	3,655,190	3,349,754	5,832,910	2,380,280	11,021,137
合計	18,895,403	3,655,190	3,349,754	10,832,910	7,380,280	33,021,137

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
コマーシャル ペーパー	1,000,000	-	-	-	-	-
社債	-	-	5,000,000	5,000,000	3,500,000	30,500,000
長期借入金	4,213,810	3,936,554	6,383,790	2,913,840	2,383,928	12,292,034
合計	5,213,810	3,936,554	11,383,790	7,913,840	5,883,928	42,792,034

(注5) 1年以内に期限到来の固定負債に含まれている長期借入金については、注記上長期借入金に一括して掲記しております。



(有価証券関係)

1 その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結決算日における連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	2,428,336	382,672	2,045,663
小計	2,428,336	382,672	2,045,663
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	163,751	214,791	51,039
小計	163,751	214,791	51,039
合計	2,592,087	597,464	1,994,623

当連結会計年度(2020年3月31日)

区分	連結決算日における連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	2,802,362	299,219	2,503,143
小計	2,802,362	299,219	2,503,143
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	289,798	393,774	103,976
小計	289,798	393,774	103,976
合計	3,092,160	692,994	2,399,166

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当連結会計年度中に売却したその他有価証券はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(2019年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
 該当するものではありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価
				うち1年超	
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	1,800,000	-	(*)
合計			1,800,000	-	

(\*) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
 該当するものではありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当するものではありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度では、給付と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。

なお、当社の一部の退職一時金制度及び一部の連結子会社が有する確定給付年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

当社は退職金制度として、確定給付企業年金制度を採用しておりましたが、2014年9月30日より現役従業員部分については確定拠出年金制度に移行いたしました。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	4,716,391	5,000,461
勤務費用	138,976	171,081
利息費用	37,731	40,003
数理計算上の差異の発生額	318,407	19,716
過去勤務費用の発生額	-	-
退職給付の支払額	211,044	212,021
退職給付債務の期末残高	5,000,461	4,979,809

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
年金資産の期首残高	3,206,234	3,044,306
数理計算上の差異の発生額	20,118	14,193
退職給付の支払額	182,047	185,199
年金資産の期末残高	3,044,306	2,873,300

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,410,416	1,336,803
退職給付費用	246,140	332,097
退職給付の支払額	230,439	317,933
制度への拠出額	89,314	92,092
退職給付に係る負債の期末残高	1,336,803	1,258,875

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	4,074,256	3,909,245
年金資産	3,973,226	3,787,188
	101,030	122,056
非積立型制度の退職給付債務	3,191,929	3,243,327
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,292,959	3,365,384
退職給付に係る負債	4,393,882	4,369,358
退職給付に係る資産	1,100,923	1,003,973
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,292,959	3,365,384

(注) 簡便法を適用した制度を含んでおります。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	138,976	171,081
利息費用	37,731	40,003
数理計算上の差異の費用処理額	20,852	20,094
過去勤務費用の費用処理額	-	-
簡便法で計算した退職給付費用	246,140	332,097
その他	81,610	25,096
確定給付制度に係る退職給付費用	525,310	588,374

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
数理計算上の差異	277,436	54,004
退職給付に係る調整額	277,436	54,004

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
未認識数理計算上の差異	274,255	220,251
退職給付に係る調整累計額	274,255	220,251

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
生命保険(一般勘定)	39%	41%
生命保険(特別勘定)	18%	16%
その他	43%	43%
合計	100%	100%

(注) その他は年金信託であり、現金及び預金で構成されております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
割引率	0.8%	0.2%
長期期待運用収益率	0.0%	0.0%

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は次のとおりであります。

前連結会計年度	133,086千円
当連結会計年度	134,936千円

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
一般管理費	8,614千円	8,719千円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権	第2回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役(社外取締役を除く) 6名 当社執行役員 5名 当社顧問 2名 当社参与 3名	当社取締役(社外取締役を除く) 6名 当社執行役員 7名 当社参与 2名
株式の種類別のストック・オプションの数(注1)	当社普通株式 9,180株	当社普通株式 8,640株
付与日	2015年5月13日	2016年5月13日
権利確定条件	(注2)	(注2)
対象勤務期間	2015年5月13日～2017年5月13日	2016年5月13日～2018年5月13日
権利行使期間	2017年5月14日～2032年5月13日	2018年5月14日～2033年5月13日

	第3回新株予約権	第4回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役(社外取締役を除く) 6名 当社執行役員 7名 当社参与 2名	当社取締役(社外取締役を除く) 6名 当社執行役員 7名 当社参与 2名
株式の種類別のストック・オプションの数(注1)	当社普通株式 8,540株	当社普通株式 7,160株
付与日	2017年5月15日	2018年5月14日
権利確定条件	(注2)	(注2)
対象勤務期間	2017年5月15日～2019年5月15日	2018年5月14日～2020年5月14日
権利行使期間	2019年5月16日～2034年5月15日	2020年5月15日～2035年5月14日

	第5回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役(社外取締役を除く) 6名 当社執行役員 9名 当社参与 1名 当社従業員 1名
株式の種類別のストック・オプションの数(注1)	当社普通株式 8,420株
付与日	2019年5月13日
権利確定条件	(注2)
対象勤務期間	2019年5月13日～2021年5月13日
権利行使期間	2021年5月14日～2036年5月13日

(注1) 株式数に換算して記載しております。なお、2018年10月1日付で実施した株式併合(普通株式5株につき1株の割合)による併合後の株式数に換算して記載しております。

(注2) 新株予約権者は、権利行使時において、当社または当社グループ会社の取締役または執行役員のいずれかの地位にあることを要します。ただし、任期満了による退任その他正当な理由に基づき当社および当社グループ会社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した場合には、喪失した日から5年以内に限って権利行使することができます。

新株予約権者が死亡した場合、その者の相続人は、新株予約権を一括してのみ行使することができます。  
 その他の条件については、当社と新株予約権者との間で締結しました割当契約書に定めるところによります。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2020年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権
権利確定前(株)			
前連結会計年度末	-	-	8,540
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	-	8,540
未確定残	-	-	-
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	7,960	8,640	-
権利確定	-	-	8,540
権利行使	-	-	-
失効	-	-	-
未行使残	7,960	8,640	8,540

	第4回新株予約権	第5回新株予約権
権利確定前(株)		
前連結会計年度末	7,160	-
付与	-	8,420
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	7,160	8,420
権利確定後(株)		
前連結会計年度末	-	-
権利確定	-	-
権利行使	-	-
失効	-	-
未行使残	-	-

(注) 2018年10月1日付で実施した株式併合(普通株式5株につき1株の割合)により、併合後の株式数に換算して記載しております。





(税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
退職給付に係る負債	1,202,487	1,236,238
繰延資産	278,611	312,605
減損損失	239,253	211,093
未払賞与	287,187	298,694
その他	1,659,529	1,422,260
小計	3,667,069	3,480,891
評価性引当額	642,871	397,003
合計	3,024,197	3,083,888
繰延税金負債との相殺	1,100,798	1,178,288
繰延税金資産の純額	1,923,398	1,905,599
<b>繰延税金負債</b>		
退職給付に係る資産	302,920千円	302,928千円
その他有価証券評価差額金	544,805	673,956
その他	359,278	313,486
合計	1,207,005	1,290,371
繰延税金資産との相殺	1,100,798	1,178,288
繰延税金負債の純額	106,206	112,082
<b>再評価に係る繰延税金資産</b>		
再評価に係る繰延税金資産	335,564千円	335,564千円
評価性引当額	335,564	335,564
合計	-	-
<b>再評価に係る繰延税金負債</b>		
再評価に係る繰延税金負債	725,791千円	554,429千円
再評価に係る繰延税金負債の純額	725,791	554,429

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
当社の法定実効税率	- %	27.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	0.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.4
住民税均等割	-	0.2
税額控除	-	0.6
評価性引当額の増減	-	4.7
その他	-	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	- %	22.6%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1 当該資産除去債務の概要

社有建物の解体時におけるアスベスト除去費用につき資産除去債務を計上しております。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を耐用年数とし、割引率は0.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

当連結会計年度において、不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、原状回復費用の新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。当該見積りの変更により、当連結会計年度の営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益が108,303千円増加しております。資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
期首残高	571,730 千円	571,730 千円
資産除去債務の履行による減少額	- 千円	276,227 千円
見積りの変更による減少額	- 千円	108,303 千円
期末残高	571,730 千円	187,200 千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、総合エネルギーサービス事業として、分散型エネルギーとエネルギーマネジメントによるコンパクトで効率的なエネルギー社会の実現を目指し、ガス・電気、熱などのエネルギーを組み合わせた新たなエネルギーモデルを北海道全域に展開していきます。

このような事業展開のもと、事業の中心である天然ガスを基軸としたエネルギー事業を「ガス」、北海道全域に向けた展開の重要な事業である「電力」、LPGや熱供給、その他のエネルギー供給、工事及び器具を含めた「エネルギー関連」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品・サービスは以下のとおりです。

「ガス」・・・・・・・・都市ガス、LNG販売

「電力」・・・・・・・・電力

「エネルギー関連」・・・・液化石油ガス、熱供給、石油製品、ガス工事、ガス器具、エネルギーサービス等

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価額に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
 前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表計上額 (注) 3
	ガス	電力	エネルギー 関連	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	65,585,256	24,411,617	30,020,441	120,017,315	1,157,124	121,174,440	-	121,174,440
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,921,571	99,232	1,247,251	4,268,055	630,942	4,898,998	4,898,998	-
計	68,506,828	24,510,849	31,267,693	124,285,371	1,788,067	126,073,438	4,898,998	121,174,440
セグメント利益	4,383,309	1,303,232	969,648	6,656,190	198,951	6,855,141	2,794,534	4,060,607
セグメント資産	92,869,836	15,482,499	35,735,849	144,088,185	910,079	144,998,265	4,568,593	149,566,858
その他の項目								
減価償却費 (注) 4	9,158,482	500,020	2,101,783	11,760,286	4,736	11,765,023	261,788	12,026,811
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額 (注) 5	7,763,876	1,470,002	7,624,889	16,858,768	4,456	16,863,225	2,042,844	18,906,069

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ITソリューション、不動産、及び保険代理業等を含んでおります。

2 (1) セグメント利益の調整額 2,794,534千円には、セグメント間取引消去123,721千円、持分法による投資損益 178,810千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用 2,739,445千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額4,568,593千円には、全社資産11,182,440千円が含まれており、その主なものは提出会社の長期投資資金、及び管理部門に係る資産等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 減価償却費には、長期前払費用の償却額を含んでおり、調整額は主に各報告セグメントに配分していない全社資産の償却費等であります。

5 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用を含んでおり、調整額は主に各報告セグメントに配分していない全社資産等であります。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表計上額 (注) 3
	ガス	電力	エネルギー 関連	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	66,021,792	27,659,350	31,258,656	124,939,799	1,435,678	126,375,477	-	126,375,477
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,326,486	101,986	1,506,508	3,934,981	789,333	4,724,315	4,724,315	-
計	68,348,279	27,761,336	32,765,164	128,874,780	2,225,012	131,099,793	4,724,315	126,375,477
セグメント利益	3,853,577	1,209,829	1,697,278	6,760,686	279,144	7,039,830	2,433,553	4,606,277
セグメント資産	96,218,630	18,880,459	33,861,099	148,960,189	909,789	149,869,979	475,205	150,345,184
その他の項目								
減価償却費 (注) 4	9,716,396	1,127,294	2,144,610	12,988,301	23,523	13,011,824	46,963	13,058,788
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額 (注) 5	11,125,645	1,001,213	3,566,247	15,693,106	13,554	15,706,660	157,811	15,864,472

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ITソリューション、不動産、及び保険代理業等を含んでおります。

2 (1) セグメント利益の調整額 2,433,553千円には、セグメント間取引消去145,955千円、持分法による投資損益 68,763千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用 2,510,745千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額475,205千円には、全社資産8,147,322千円が含まれており、その主なものは提出会社の長期投資資金、及び管理部門に係る資産等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 減価償却費には、長期前払費用の償却額を含んでおり、調整額は主に各報告セグメントに配分していない全社資産の償却費等であります。

5 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用を含んでおり、調整額は主に各報告セグメントに配分していない全社資産等であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

「ガス」セグメントにおいて、第3四半期連結会計期間に室蘭ガス株式会社の株式を追加取得し、持分法適用関連会社になったことにより、負ののれん発生益180,408千円を連結損益計算書上「持分法による投資利益」に含めて計上しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

「ガス」セグメントにおいて、第4四半期連結会計期間に室蘭ガス株式会社の株式を追加取得したことにより、負ののれん発生益8,868千円を連結損益計算書上「持分法による投資利益」に含めて計上しております。

(関連当事者情報)

1 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の関連会社等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
関連会社	石狩LNG 棧橋(株)	札幌市 中央区	240,000	設備の所有・賃貸等	所有 直接 50	1名	設備の 賃借	資産の譲渡 売却代金・売却 益 * 1	5,777,655 1,315,041	-	-
								貸付金取引 * 2	2,900,000	関係会社 長期貸付金	2,806,720

上記の金額のうち、取引金額並びに期末残高には消費税等が含まれておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

\* 1 固定資産の売却価格については、市場実勢等を参考に、価格交渉の上で決定しております。

\* 2 資金の貸付については、市場金利を勘案して利息を合理的に決定しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
関連会社	石狩LNG 棧橋(株)	札幌市 東区	240,000	設備の所有・賃貸等	所有 直接 50	1名	設備の 賃借	貸付金の回収 利息の受取 * 1	359,920 18,476	関係会社 長期貸付金	2,446,800

上記の金額のうち、取引金額並びに期末残高には消費税等が含まれておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

\* 1 資金の貸付については、市場金利を勘案して利息を合理的に決定しております。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	2,552.52円	2,747.48円
1株当たり当期純利益金額	198.95円	224.58円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	198.59円	224.07円

(注) 1. 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」を算定しております。

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	3,503,619	3,954,582
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額(千円)	3,503,619	3,954,582
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,610	17,608
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
(うち支払利息(税額相当額控除後)(千円))	(-)	(-)
普通株式増加数(千株)	31	39
(うち転換社債型新株予約権付社債(千株))	(-)	(-)
(うち新株予約権(千株))	(31)	(39)

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	46,910,282	50,411,863
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	1,962,752	2,033,501
(うち新株予約権(千円))	(29,428)	(38,147)
(うち非支配株主持分(千円))	(1,933,324)	(1,995,353)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	44,947,530	48,378,361
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	17,609	17,608



## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
北海道ガス(株)	第11回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2011年 9月5日	-	-	1.238	なし	2021年 9月3日
	第13回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2013年 12月19日	-	-	0.554	"	2020年 12月18日
	第14回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2015年 3月24日	5,000,000	5,000,000	0.478	"	2023年 3月24日
	第15回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2016年 3月16日	5,000,000	5,000,000	0.395	"	2026年 3月16日
	第16回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2016年 3月16日	3,000,000	-	0.140	"	2020年 3月16日
	第17回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2017年 3月14日	5,000,000	5,000,000	0.250	"	2024年 3月14日
	第18回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2017年 11月15日	3,500,000	3,500,000	0.401	"	2024年 11月15日
	第19回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2018年 11月28日	3,500,000	3,500,000	0.360	"	2025年 11月28日
	第20回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2018年 12月13日	5,000,000	5,000,000	0.800	"	2033年 12月13日
	第21回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2018年 12月13日	5,000,000	5,000,000	0.405	"	2028年 12月13日
	第22回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2019年 11月27日	-	4,000,000	0.270	"	2026年 11月27日
	第23回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2019年 12月12日	-	3,000,000	0.510	"	2034年 12月12日
	第24回無担保社債 (社債間限定同順位 特約付)	2019年 12月12日	-	5,000,000	0.280	"	2029年 12月12日
	合計			35,000,000	44,000,000 (-)		

(注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
-	-	5,000,000	5,000,000	3,500,000

3. 上記に掲げる社債のうち、第11回無担保社債及び第13回無担保社債については、債務履行引受契約を締結したため、償還したものと処理しております。

なお、社債権者に対する原社債償還義務は、偶発債務として注記しております。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	321,001	1,116,017	0.3	
1年以内に返済予定の長期借入金	7,695,403	4,213,810	0.6	
1年以内に返済予定のリース債務	236,711	230,043	-	
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	26,239,271	27,910,146	0.5	2021年4月～ 2030年3月
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	1,640,217	1,430,976	-	2021年4月～ 2034年9月
其他有利子負債 コマーシャルペーパー(1年以内)	8,200,000	1,000,000	-	
合計	44,332,604	35,900,992		

- (注) 1. 「平均利率」については借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため記載しておりません。  
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	3,936,554	6,383,790	2,913,840	2,383,928
リース債務	224,923	216,358	205,426	196,923

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第1四半期 連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	第174期 連結会計年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)
売上高 (千円)	28,261,971	54,526,595	85,243,725	126,375,477
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	2,511,856	1,163,378	721,818	5,194,716
親会社株主に帰属 する四半期(当期)純利益金額 (千円)	1,960,438	975,709	613,271	3,954,582
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	111.33	55.41	34.83	224.58

	第1四半期 連結会計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	第2四半期 連結会計期間 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)	第3四半期 連結会計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	第4四半期 連結会計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)
1株当たり四半期純 利益金額又は1株当 たり四半期純損失金 額( ) (円)	111.33	55.92	20.58	189.76

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
製造設備	19,235,314	18,626,730
供給設備	1 40,640,529	1 40,840,455
業務設備	2 8,464,402	2 11,786,651
附帯事業設備	1, 2, 3 11,412,751	1, 2, 3 15,258,058
建設仮勘定	8,476,138	2,030,947
有形固定資産合計	88,229,136	88,542,842
<b>無形固定資産</b>		
	3 2,532,132	3 2,337,517
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	4,259,106	4,722,042
関係会社投資	5,799,949	5,801,530
関係会社長期貸付金	7,046,720	5,626,800
長期前払費用	444,374	674,424
繰延税金資産	1,027,064	916,875
前払年金費用	1,085,348	1,085,376
その他投資	454,278	616,120
貸倒引当金	5,437	11,584
投資その他の資産合計	20,111,404	19,431,586
<b>固定資産合計</b>	110,872,672	110,311,946
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	109,087	69,518
受取手形	7 341,503	290,465
売掛金	9,520,796	9,370,653
関係会社売掛金	1,897,351	1,286,755
未収入金	906,485	880,014
製品	29,327	21,729
原料	2,939,194	4,831,909
貯蔵品	291,975	395,850
前払費用	228,770	261,178
関係会社短期債権	5,148,157	5,500,026
その他流動資産	1,226,334	1,621,340
貸倒引当金	48,604	43,842
<b>流動資産合計</b>	22,590,380	24,485,600
<b>資産合計</b>	133,463,053	134,797,547

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
固定負債		
社債	32,000,000	44,000,000
長期借入金	25,386,825	27,288,824
再評価に係る繰延税金負債	725,719	554,429
退職給付引当金	2,818,869	3,016,540
ガスホルダー修繕引当金	198,650	112,822
保安対策引当金	624,225	673,245
器具保証引当金	-	355,151
その他固定負債	310,687	349,854
固定負債合計	62,064,976	76,350,868
流動負債		
1年以内に期限到来の固定負債	4 10,418,064	4 3,991,293
買掛金	1,835,874	1,607,947
短期借入金	321,001	1,116,017
未払金	3,063,465	2,101,422
未払費用	2,960,597	2,961,268
未払法人税等	5 1,417,483	5 853,091
前受金	1,634,995	602,749
資産除去債務	372,232	-
預り金	52,521	57,088
関係会社短期債務	3,205,331	4,142,597
工事損失引当金	200,345	80,326
固定資産撤去損失引当金	46,037	11,570
コマーシャル・ペーパー	8,200,000	1,000,000
その他流動負債	168,808	528,681
流動負債合計	33,896,757	19,054,054
負債合計	95,961,734	95,404,922
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,515,830	7,515,830
資本剰余金		
資本準備金	5,275,595	5,275,595
その他資本剰余金	-	12
資本剰余金合計	5,275,595	5,275,608
利益剰余金		
利益準備金	775,775	775,775
その他利益剰余金		
別途積立金	13,600,000	13,600,000
繰越利益剰余金	8,355,120	10,405,558
利益剰余金合計	22,730,895	24,781,333
自己株式	171,865	173,136
株主資本合計	35,350,455	37,399,635
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,449,253	1,725,092
土地再評価差額金	672,182	229,749
評価・換算差額等合計	2,121,435	1,954,841
新株予約権	29,428	38,147
純資産合計	37,501,319	39,392,625
負債純資産合計	133,463,053	134,797,547

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
ガス事業売上高		
ガス売上	56,895,028	57,608,792
事業者間精算収益	102,392	109,758
ガス事業売上高合計	56,997,420	57,718,550
売上原価		
期首たな卸高	23,319	29,327
当期製品製造原価	34,395,780	34,522,157
当期製品自家使用高	968,055	1,259,409
期末たな卸高	29,327	21,729
売上原価合計	33,421,717	33,270,346
売上総利益	23,575,703	24,448,204
供給販売費	20,520,989	21,382,314
一般管理費	2,755,501	2,521,932
事業利益	299,211	543,957
営業雑収益		
受注工事収益	3,085,294	3,428,530
その他営業雑収益	8,732,076	8,658,140
営業雑収益合計	11,817,371	12,086,671
営業雑費用		
受注工事費用	2,968,137	3,282,019
その他営業雑費用	8,579,055	8,121,602
営業雑費用合計	11,547,192	11,403,621
附帯事業収益	35,881,779	38,730,111
附帯事業費用	33,518,597	36,985,060
営業利益	2,932,572	2,972,057
営業外収益		
受取利息	77,839	76,259
受取配当金	191,639	239,352
受取賃貸料	168,020	270,602
ガスホルダー修繕引当金戻入額	30,765	-
雑収入	251,330	410,140
営業外収益合計	<sup>1</sup> 719,596	<sup>1</sup> 996,355
営業外費用		
支払利息	237,648	177,702
社債利息	132,602	159,666
社債発行費償却	72,441	62,491
社債償還損	60,958	-
出向社員費用	229,813	240,161
雑支出	27,176	44,816
営業外費用合計	760,642	684,838
経常利益	2,891,526	3,283,574
特別利益		
固定資産売却益	<sup>2</sup> 1,315,041	-
特別利益合計	1,315,041	-
税引前当期純利益	4,206,567	3,283,574
法人税等	1,388,447	1,029,394
法人税等調整額	162,584	190,251
法人税等合計	1,225,862	839,143
当期純利益	2,980,705	2,444,431

## 【営業費明細表】

科目	注記 番号	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)				当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)			
		製造費 (千円)	供給販売費 (千円)	一般管理費 (千円)	合計 (千円)	製造費 (千円)	供給販売費 (千円)	一般管理費 (千円)	合計 (千円)
原材料費		30,218,979			30,218,979	30,202,101			30,202,101
原料費		29,603,662			29,603,662	29,527,411			29,527,411
加熱燃料費									
補助材料費		615,316			615,316	674,689			674,689
労務費		685,724	5,076,846	985,151	6,747,722	685,459	5,022,863	956,507	6,664,830
役員給与				200,831	200,831			211,120	211,120
給料		339,846	2,849,279	353,702	3,542,829	348,593	2,760,815	366,566	3,475,975
雑給		36,548	410,992	72,035	519,576	37,241	421,939	61,144	520,325
賞与手当		136,977	814,815	121,251	1,073,044	125,312	806,173	108,103	1,039,589
法定福利費		91,178	563,044	133,059	787,282	87,903	555,263	141,964	785,132
厚生福利費		37,620	172,121	36,466	246,208	40,727	198,728	34,188	273,644
退職手当	2	43,552	266,592	67,804	377,949	45,680	279,941	33,419	359,041
経費		2,884,988	8,700,039	1,551,651	13,136,679	3,135,919	9,296,362	1,480,011	13,912,293
修繕費	3	293,147	2,105,974	41,979	2,441,102	489,837	1,801,152	4,549	2,295,539
電力料		320,002	52,120	6,630	378,753	260,770	71,533	4,000	336,303
水道料		14,283	6,156	465	20,905	28,268	7,906	610	36,785
使用ガス費		13,144	89,196		102,340	6,435	97,481		103,917
消耗品費		52,398	313,704	36,271	402,374	58,954	297,727	39,162	395,843
運賃		2,879	21,469	8,536	32,885	2,631	19,062	5,197	26,892
旅費交通費		9,337	95,101	37,544	141,983	8,891	88,301	30,158	127,351
通信費		1,751	333,996	7,241	342,989	1,764	333,685	7,119	342,570
保険料		33,972	8,285	54,243	96,501	44,426	9,332	58,935	112,693
賃借料		1,921,314	528,119	175,200	2,624,634	1,989,647	843,064	169,743	3,002,454
委託作業費		117,040	2,188,031	110,883	2,415,956	162,138	2,393,871	97,813	2,653,823
租税課金	4	91,677	834,109	81,297	1,007,084	76,008	901,496	83,818	1,061,323
事業税				750,462	750,462			745,596	745,596
試験研究費			105,377		105,377		118,480		118,480
教育費		1,977	24,350	32,071	58,398	2,839	27,419	34,906	65,166
需要開発費			1,081,902		1,081,902		1,380,499		1,380,499
たな卸減耗費			1,988		1,988		3,029		3,029
固定資産除却費		470	196,117	4,634	201,223	171	148,868	11,142	160,181
貸倒償却			9,435		9,435		16,766		16,766
貸倒引当金繰入額			6,395		6,395		550		550
雑費		11,588	82,311	204,189	298,090	3,133	95,436	187,256	285,826
事業者間精算費			615,890		615,890		640,695		640,695
減価償却費		1,358,172	6,744,103	218,699	8,320,975	1,482,494	7,063,088	85,413	8,630,996
LNG受託加工振替額		752,084			752,084	983,817			983,817
計		34,395,780	20,520,989	2,755,501	57,672,271	34,522,157	21,382,314	2,521,932	58,426,404

- (注) 1 製造原価計算の方法は、単純総合原価計算法によっております。  
2 退職給付引当金繰入額は、第173期189,363千円、第174期 222,247千円であります。  
3 ガスホルダー修繕引当金繰入額は、第173期57,197千円、第174期 7,622千円であります。  
4 租税課金の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
固定資産税	541,663	534,817
道路占用料	369,702	378,497
その他	95,718	148,007
合計	1,007,084	1,061,323

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	7,515,830	5,275,595	-	5,275,595	775,775	13,600,000	6,123,571	20,499,346
当期変動額								
剰余金の配当							748,474	748,474
当期純利益							2,980,705	2,980,705
自己株式の取得								
自己株式の処分			13	13				
土地再評価差額金の取崩								
自己株式の消却			13	13			681	681
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	2,231,548	2,231,548
当期末残高	7,515,830	5,275,595	-	5,275,595	775,775	13,600,000	8,355,120	22,730,895

	株主資本		評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	168,494	33,122,277	1,792,611	672,182	2,464,794	20,813	35,607,885
当期変動額							
剰余金の配当		748,474					748,474
当期純利益		2,980,705					2,980,705
自己株式の取得	4,218	4,218					4,218
自己株式の処分	151	165					165
土地再評価差額金の取崩		-					-
自己株式の消却	695	-					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			343,358	-	343,358	8,614	334,743
当期変動額合計	3,371	2,228,177	343,358	-	343,358	8,614	1,893,433
当期末残高	171,865	35,350,455	1,449,253	672,182	2,121,435	29,428	37,501,319

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	7,515,830	5,275,595	-	5,275,595	775,775	13,600,000	8,355,120	22,730,895
当期変動額								
剰余金の配当							836,426	836,426
当期純利益							2,444,431	2,444,431
自己株式の取得								
自己株式の処分			12	12				
土地再評価差額金の取崩							442,433	442,433
自己株式の消却								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	12	12	-	-	2,050,438	2,050,438
当期末残高	7,515,830	5,275,595	12	5,275,608	775,775	13,600,000	10,405,558	24,781,333

	株主資本		評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	171,865	35,350,455	1,449,253	672,182	2,121,435	29,428	37,501,319
当期変動額							
剰余金の配当		836,426					836,426
当期純利益		2,444,431					2,444,431
自己株式の取得	1,332	1,332					1,332
自己株式の処分	61	73					73
土地再評価差額金の取崩		442,433					442,433
自己株式の消却		-					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			275,839	442,433	166,593	8,719	157,874
当期変動額合計	1,271	2,049,179	275,839	442,433	166,593	8,719	1,891,305
当期末残高	173,136	37,399,635	1,725,092	229,749	1,954,841	38,147	39,392,625



## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

但し、千歳支店、石狩LNG基地並びに供給設備のうち天然ガス用設備及び、46エネルギーセンターにおける熱供給事業用設備は定額法によっております。

また、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	3～50年
導管	13～22年
機械装置及び工具器具備品	2～20年

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産のうち、一括償却を選択した資産については、3年間で均等償却をしております。

##### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

##### (4) 長期前払費用

均等償却をしております。

#### 2 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

##### (2) デリバティブ

時価法

##### (3) たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

#### 3 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率法により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務費用については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（1年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として15年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

一部の退職給付制度は、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を採用しています。

(3) ガスホルダー修繕引当金

球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見積額を次回修繕までの期間に配分して計上しております。

(4) 保安対策引当金

ガス事業の保安の確保に要する費用の支出に備えるため、お客さまがガスをご使用にならない経年管等の対策に要する費用の見積額を計上しております。

(5) 工事損失引当金

ガス機器工事に係る将来の損失発生に備えるため、当事業年度末の未引渡工事についての翌事業年度以降の損失発生見込額を見積り計上しております。

(6) 固定資産撤去損失引当金

供給設備等の撤去費用に伴う支出に備えるため、支出見込額を計上しております。

(7) 器具保証引当金

販売器具の保証期間内サービスに要する費用の支出に備えるため、翌事業年度以降の費用発生の見積額を計上しております。

4 収益の計上基準

完成工事高の計上基準

請負工事に係る収益計上は当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

5 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、適用要件を満たしている場合は、金利スワップ特例処理、為替予約の振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
金利スワップ	借入金
為替予約	外貨建金銭債権債務

(3) ヘッジ方針

内規に基づき、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジしております。なお、実需に関係のないデリバティブ取引は行っておりません。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジの有効性評価は、ヘッジ手段とヘッジ対象の対応関係を確認することにより行っております。但し、特例処理の要件を満たしている金利スワップ及び振当処理の要件を満たしている為替予約については、有効性の評価を省略しております。

## 6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識過去勤務費用及び未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

### (2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

### (会計上の見積りの変更)

#### 資産除去債務の見積りの変更

当事業年度において、不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、原状回復費用の新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。当該見積りの変更により、当事業年度の営業利益、経常利益、税引前当期純利益が106,602千円増加しております。

(貸借対照表関係)

- 1 供給設備及び附帯事業設備の取得価額は、工事負担金受入のため、次の金額だけ圧縮記帳されております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
当期圧縮記帳額	222,844千円	192,973千円
圧縮記帳累計額	13,496,125千円	13,648,241千円

- 2 附帯事業設備の取得価額は、国庫補助金受入のため、次の金額だけ圧縮記帳されております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
当期圧縮記帳額	43,573千円	721,209千円
圧縮記帳累計額	48,676千円	769,886千円

- 3 業務設備、附帯事業設備及び無形固定資産の取得価額は、収用のため、次の金額だけ圧縮記帳されております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
当期圧縮記帳額	- 千円	517,390千円
圧縮記帳累計額	149,874千円	667,265千円

- 4 1年以内に期限到来の固定負債の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
社債	3,000,000千円	- 千円
長期借入金	7,408,976千円	3,982,686千円
リース債務	9,088千円	8,607千円
計	10,418,064千円	3,991,293千円

- 5 内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法人税	701,601千円	210,647千円
住民税	199,385千円	158,237千円
事業税	516,496千円	484,206千円
計	1,417,483千円	853,091千円

- 6 偶発債務

(1) 保証債務

石狩サービス㈱の清算により個人向リース機器契約のT & Dリース㈱に対する連帯保証を承継しており、その金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
	2,109千円	125千円

(2) 債務履行引受契約

社債の債務履行引受契約に係る偶発債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
第11回無担保社債	5,000,000千円	5,000,000千円
第13回無担保社債	5,000,000千円	5,000,000千円

7 事業年度末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、前事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の満期手形が前事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
受取手形	22,841千円	- 千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業外収益	236,091千円	253,328千円
特別利益	1,315,041千円	- 千円

2 固定資産売却益

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物	6,593千円	- 千円
構築物他	1,226,325千円	- 千円
長期前払費用	82,122千円	- 千円

(有価証券関係)

前事業年度(2019年3月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式5,236,942千円、関連会社株式563,007千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

当事業年度(2020年3月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式5,236,942千円、関連会社株式564,588千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
退職給付引当金	789,992千円	845,232千円
減価償却超過額	82,643	74,034
保安対策引当金	174,221	287,025
減損損失	214,916	191,717
未払事業税	127,842	135,142
未払賞与	177,605	178,084
その他	613,507	425,060
小計	2,180,728千円	2,136,296千円
評価性引当額	288,311	242,536
合計	1,892,417千円	1,893,760千円
<b>繰延税金負債</b>		
前払年金費用	302,920千円	302,928千円
その他有価証券評価差額金	544,805	673,956
その他	17,625	-
合計	865,352千円	976,884千円
繰延税金資産の純額	1,027,064千円	916,875千円
<b>再評価に係る繰延税金資産</b>		
再評価に係る繰延税金資産	335,564千円	335,564千円
評価性引当額	335,564	335,564
合計	-千円	-千円
<b>再評価に係る繰延税金負債</b>		
再評価に係る繰延税金負債	725,719千円	554,429千円
再評価に係る繰延税金負債の純額	725,719千円	554,429千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	- %	27.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	0.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.7
住民税均等割	-	0.1
評価性引当額の増減	-	1.3
その他	-	1.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	- %	25.5%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

## 【附属明細表】

## 【固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
製造設備 (うち土地) [土地再評価分]	28,465,716 (5,468,461)	1,154,211 (-)	2,434 (-)	29,617,493 (5,468,461)	10,990,762	1,762,613	18,626,730 (5,468,461)
供給設備 (注) 1 (うち土地) [土地再評価分]	201,720,482 (3,565,882)	6,351,632 (1,483)	1,055,757 (-)	207,016,358 (3,567,365)	166,175,903	6,031,715	40,840,455 (3,567,365)
業務設備 (注) 2 (うち土地) [土地再評価分]	15,116,476 (4,688,961)	4,862,441 (-)	2,010,083 (705,978)	17,968,834 (3,982,983)	6,182,182	727,517	11,786,651 (3,982,983)
附帯事業設備 (注) 3 (うち土地) [土地再評価分]	14,333,959 (142,939)	4,946,253 (23,303)	28,563 (-)	19,251,649 (166,243)	3,993,590	1,094,002	15,258,058 (166,243)
建設仮勘定 (うち土地)	8,476,138 (23,303)	11,448,380 (1,483)	17,893,571 (24,786)	2,030,947 (-)	-	-	2,030,947 (-)
有形固定資産計 (うち土地) [土地再評価分]	268,112,773 (13,889,550)	28,762,920 (26,269)	20,990,410 (730,765)	275,885,282 (13,185,055)	187,342,439	9,615,848	88,542,842 (13,185,055)
無形固定資産							
電気供給施設利用権 (注) 4	60,122	-	62	60,059	30,853	3,996	29,206
電話加入権	24,156	-	72	24,083	-	-	24,083
電気通信施設利用権 (注) 4	4,824	-	-	4,824	4,824	20	-
地上権・地役権	29,869	-	-	29,869	-	-	29,869
ソフトウェア(注) 4 (注) 5	7,549,340	712,383	8,317	8,253,405	6,004,880	897,589	2,248,525
その他無形固定資産 (注) 4	5,285	3,392	-	8,677	2,845	332	5,831
無形固定資産計	7,673,598	715,776	8,453	8,380,921	6,043,403	901,937	2,337,517
長期前払費用 (注) 6	710,822	931,143	655,758	986,206	311,782	1,364,689	674,424

(注) 1 工事負担金による当期圧縮額 192,973千円 圧縮累計額 13,159,436千円

2 収用による当期圧縮額 517,390千円 圧縮累計額 517,390千円

3 工事負担金、収用、国庫補助金による当期圧縮額 721,209千円 圧縮累計額 1,405,543千円

4 定額法

5 収用による圧縮累計額 3,022千円

6 均等償却

7 当期増加額及び当期減少額における[ ]内は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)により行った土地の再評価に係る再評価差額であり、土地の内数であります。

8 当期末減価償却累計額又は償却累計額の欄には、減損損失累計額が含まれております。

9 当期増減のうち主なものは、次のとおりであります。

(単位：千円)

資産の種類	当期増加額				当期減少額			
	件名	計上時期	取得価額	減価償却 累計額	件名	減少時期	取得価額	減価償却 累計額
製造設備	-	-	-	-	-	-	-	-
供給設備	導管	4～3月	6,008,358	505,374	導管	4～3月	307,939	268,271
業務設備	北ガスグループ 本社ビル	6～9月	4,030,412	236,823	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-	-

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資 有価証券	その他 有価証券	KDDI(株)	704,400	2,247,036
		札幌駅総合開発(株)	1,409,680	1,010,120
		(株)ほくほくフィナンシャルグループ (優先株)	540,000	270,000
		エア・ウォーター(株)	165,258	245,573
		(株)北洋銀行	741,000	151,164
		飯野海運(株)	392,600	121,706
		帝国繊維(株)	52,800	110,880
		石油資源開発(株)	40,000	71,080
		(株)ほくほくフィナンシャルグループ	58,900	57,015
		セントラルリーシングシステム(株)	320	48,000
他46銘柄		849,440	389,468	
計		4,954,398	4,722,042	

## 【引当金明細表】

区分		当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	投資その他の 資産	5,437	11,584	1,548	3,889	11,584
	流動資産	48,604	43,842	20,763	27,840	43,842
小計		54,041	55,426	22,311	31,730	55,426
退職給付引当金		2,818,869	1,321,198	1,123,527		3,016,540
ガスホルダー修繕引当金		198,650	7,622	93,450	-	112,822
保安対策引当金		624,225	143,524	94,503	-	673,245
工事損失引当金		200,345	80,326	200,345	-	80,326
固定資産撤去損失引当金		46,037	11,570	46,037	-	11,570
器具保証引当金		-	355,151	-	-	355,151
計		3,942,169	1,974,820	1,611,905		4,305,083

(注) 1. 引当金の計上理由及び算定方法は「重要な会計方針 3 引当金の計上基準」に記載しております。

2. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、期首残高の洗替によるものであります。



(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年9月30日及び3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。  公告掲載URL ( <a href="https://www.hokkaido-gas.co.jp/">https://www.hokkaido-gas.co.jp/</a> )
株主に対する特典	毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上を保有されている株主さまに対し、下記の通り贈呈いたします。 100株以上200株未満 おこめ券(1kg相当) 200株以上1,000株未満 おこめ券(2kg相当) 1,000株以上 商品カタログ(3,000円相当の北海道特産・名産品)

(注) 当社定款の定めにより、株主(実質株主を含む。)は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利。
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利。
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利。
- (4) 会社法第194条第1項の規定による請求をする権利。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第173期)	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	2019年6月26日 関東財務局長に提出。
(2)	有価証券報告書の訂正報告 書 及び確認書	事業年度 (第173期)	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	2019年10月4日 関東財務局長に提出。
(3)	内部統制報告書 及びその添付書類	事業年度 (第173期)	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	2019年6月26日 関東財務局長に提出。
(4)	四半期報告書及び 確認書	第174期 第1四半期	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	2019年8月9日 関東財務局長に提出。
		第174期 第2四半期	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	2019年11月14日 関東財務局長に提出。
		第174期 第3四半期	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	2020年2月14日 関東財務局長に提出。
(5)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19 条第2項第9号の2(株主総会における 議決権行使の結果)の規定に基づく臨時 報告書	2019年6月27日 関東財務局長に提出。	
(6)	訂正発行報告書			2019年10月4日 関東財務局長に提出。
(7)	発行登録書(株券、社債券 等)及びその添付書類			2019年10月3日 関東財務局長に提出。
(8)	発行登録追補書類(株券、 社債券等)			2019年12月6日 関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月24日

北海道瓦斯株式会社  
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

東 京 事 務 所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 川 崎 浩 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 野 口 哲 生 印

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている北海道瓦斯株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、北海道瓦斯株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### < 内部統制監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、北海道瓦斯株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、北海道瓦斯株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年6月24日

北海道瓦斯株式会社  
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

東 京 事 務 所

指定社員 公認会計士 川 崎 浩 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 野 口 哲 生 印  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている北海道瓦斯株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第174期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、北海道瓦斯株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。



監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。